

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	89	電気使用料 9 設備保守点検委託料 80	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	・辻ヶ池公園の防犯カメラ2台について年1回継続実施されている。	・不具合の報告はうけてない。	・正常な状態が保たれている。				継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課自治振興費
地域掲示板設置事業	212	修繕料 212	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	1. 辻ヶ池公園東出入口付近の掲示板は経年劣化により倒壊の恐れがあるので、撤去されていた。 2. 大和町(藤本米穀店前)の掲示板は掲示板が浮き上がり使用出来ない状態であった。	1. 辻ヶ池公園東北出入口に設置場所を移し新設(木製)された。(場所の移動は地元の要望) 2. 大和町分は掲示板の張り替えを行った	1. 設置場所が幹線道路の方向へ移ったので利用価値が高まった。 2. 苦勞なく掲示出来るようになった。	周囲環境を考慮し木製を選択したが、耐用年数に不安を感じる。			地域内の広報に寄与しているものと認識。木製であり、管理に十分留意いただきたい。	地域分権・協働課自治振興費
AED管理事業	1,504	器具費 1,504	高齢者の利用が比較的多い共同利用施設に新たにAEDを配置し、万が一の場合に対応できるようにする。	共同利用施設に配備されていなかった。	・市立コミュニティセンター、池田会館、上池田会館、城南会館に各1セット配備 ・各会館に於いて救命講習会を開催、各会館共20名程度の出席	・利用者に安心感を与えたのではないかと効果の現れないことを祈る	・盗難 ・万が一使用した後の連絡の徹底。(パッド等の補給の為)			共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来ると思える。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課保健衛生総務費
道路安全対策事業	700	修繕料 700	池田市の観光資源である城跡公園・阪急文庫・逸翁美術館等へのメインルートを中心に歩けるようグリーンベルトを設ける。	大型観光バスの駐車場が新設されバスの出入りや交通量が多い場所であるにもかかわらず、歩道が無く大変危険であった。	グリーンベルト舗装が阪急文庫入り口まで延長された。	ドライバー歩行者それぞれの通行区分が明確になり、安心して通行できるようになった。	経年劣化による再舗装の必要が生じる。			歩行者に通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上一定の効果があったと考え	道路・河川課道路維持費
池小校区校庭開放委員会支援事業	83	校用器具費 83	無料開放され多くの人に利用されている池田小学校屋内運動場のフロアを、良好な状態で長期間維持するための活動に対し備品整備を行う。	満足に使用できる掃除機がなかった。	業務用掃除機(集じん容量7L)2台を購入。	池田小学校との共同利用により、体育館内が良好な状態が保たれている。	丁寧に使用するよう指導を徹底する(特に児童に対して)			屋内運動場が清潔な状態で保たれているため、効果があるものと評価できる。	総務・学務課学校管理費
池田小学校緑化事業	950	修繕料 950	池田小学校児童に“緑の絨毯”に触れる自然環境を提供することにより教室外でのコミュニケーション創りを推進する。	体育館と北校舎に囲まれた敷地は2年前の耐震工事時に整備されたが年月の経過に伴い降雨により土が流され地面にガラ(石ころ)が浮き出した状況であった。学校側と協議の結果、緑化の領域として整備し、芝生よりも育てやすいヒメイワダレ草の植栽を決定し、土壌整備工事を行った後、市内園芸業者指導のもと5月30日に6年生児童全員によりヒメイワダレ草ポット3200個の植栽を行った。	植栽後、約3ヶ月間はヒメイワダレ草養生のため柵を設け週2~3回の水やり、雑草の駆除など学校側の手により概ね順調に生育した(別添資料・1参照)。冬に入ると地面上の葉の部分が枯れた為、根付かなかったとの判断のもとバスケットをする児童によりヒメイワダレ草の根の育成が止まってしまった。新年の3月末~4月にかけて見られる新芽がほとんど出ないという“緑の絨毯”からは程遠い現状である。(別添資料・2参照)	土壌整備を行ったのでガラ(石ころ)の浮きだし状況が解消された事のみ止まっている。	今回の緑化事業については実際に使用する児童の意見聴取をせずに実施したことにも一因があると思われる。よって今後は管理体制のあり方もきめ十分話し合った上で実施する必要がある。			緑化の推進による学校施設的美観の向上に資するとともに、草木に触れる機会を提供するという教育的な利点も見込めるもの、現状が根付いていない状態であるため、管理体制を検討する必要がある。	総務・学務課学校管理費
地域自主防犯・防災体制強化事業	367	補助金 367	地域の人たちが自らの活動で安全・安心を獲得できるように自主防災組織の能力強化を図る。	綾羽一丁目地域防犯会 平成27年度に防災倉庫など一丁目期防災資機材を配備。	今年度をもって防災資機材の配備が完了した。	昨年度は実施できなかった下記の訓練などを実施できた。(防災会報告) ・防災本部の設置訓練 ・発電機による夜間の照明訓練 ・アルファ米の炊き出し訓練など	盗難防止対策及び機材のメンテナンス費用等の捻出。			地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課自治振興費
自主防災会合同防災訓練支援事業	300	補助金 300	池小校区・自主防災組織連絡会の主導により13自主防災会が一同に会する防災訓練を実施し、地域の人たちの防災意識の高揚を図ると共に他地域の人たちとの連携を図る。	安全安心のまち部会が主導し実施していた。	13自主防災会連絡会が主催し、防災フェスティバルを実施。	未結成の町会にも声かけし参加を要請した結果、西本町町会が新たに防災会設立の届けをされた。	参加者からマンネリ化の声も聞こえてくるが、同じ事を繰り返し行ない身に付けていくことが訓練であることをご理解頂けるよう努めなければならない。(平安ボケの一掃)			自主防災組織が合同で訓練を行い、地域の防災活動大きく貢献したことを評価する。万が一災害が発生した時の連携等を期待する。	危機管理課自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	440	補助金 440	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業	提案事業を見やすく・わかりやすく紹介することができている町会員外の人にも自分が住んでいる地域の様子を知る事ができる	身近な情報紙として評価されつつある又他校区の方からも高い評価されてきている。	マンション等が増え部数を増やしているところ 10年過ぎたのでアンケートをとる必要がある 今後も踏まえ、橋口ゼミとの協力も強化しアンケートの実施 講習も含め今後の市民ニーズを吸い上げ 再度参加を促していく必要がある	各部会毎で評価(客観的な指標も用いた)協議会役員会で最終照査してまとめた。		大学生や中学生との共同事業も多く、うまく若者の意見を取り込みながら活動いただいているものと評価。子どもが多いという地域の特性を、引き続きまちづくりに有効に活かしていただきたい。	地域分権・協働課自治振興費
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	858	補助金 858	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・市立池田会館内に設置(平成23年度から) ・専属女性事務員1名、男性会員2名で運営。	・継続運営中。	・本協議会内が一元化され問題の発生が少なくなった。	間借りする池田会館の存続が危ぶまれる。			今後の拠点のあり方について、地域内で活発に議論いただきたい。	地域分権・協働課自治振興費
辻ヶ池公園整備事業	100	補助金 100	経年劣化が激しい辻ヶ池公園の廃土処理ピットの補修を行う。	廃土処理PITのカバー及び備品倉庫が経年による劣化の為、水が入り使用困難であった	1. 廃土処理PITのテント張替 2. 備品倉庫建て替え	1. 雨水の浸水が防げ良質の園芸土の配給が可能になった。 2. 堅牢な倉庫になったので、いたずらが減少した。	今後も経年劣化による廃土処理ピットのテント張替メンテナンスが必要である			不用園芸土の回収、再利用を行い、地域としてエコ活動に貢献している。	農地緑政課自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

「ちいさな絵本館」 推進事業	1,366 補助金 1,366	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一層の内容の充実（蔵書・イベント・情報発信等）を図り、子どもたちの豊かな成長を応援する。	創立7年目を迎えた継続事業。年間スケジュールに基づき子育て支援が継続されている。ホームページにはきめ細かい情報が掲載されている。乳幼児の来館を歓迎している。絵本の貸出を行っている。	来館者数が増加している。（今年度平均19人/日 10%増） 内訳は大人47%・乳幼児40%・幼稚園児10%。特に土曜日には若いお父さん（イクメン）の来館が増えている。ホームページで当館の存在を知り来館されるケースも多いようだ。蔵書数も年間200冊（補充を含め）ほど増加している。	若いお母さん達の交流の場になっている。（リピーターが多い）貸出しによる効果。（家計・時間・絵本に接する機会増など）子育て支援に寄与している。	開館日を増やすこと。（特に需要の多い土曜日の午後、日曜、祝日）現状のボランティアスタッフの人数では難しい。当該日については最低賃金制度（883円/H）に基づくスタッフの募集も検討が必要かも。現行スタッフとの関連もあり・・・頭を悩ませている。現行（約2時間30分 800円）	絵本の読み聞かせなどを通し、池田小学校区の子育て支援の場として根付いている。ホームページの更新や地域情報誌への情報発信により、利用者が身近に感じられるよう周知している。また、蔵書の充実により、本の貸出数が増加している。引き続き利用者ニーズの把握し、更なる活動の充実を期待している。	子育て支援課 自治振興費
交通安全対策事業	76 補助金 76	歩行者（特に児童）の安全確保のため、電柱巻付け型の交通安全看板を設置する。	菅原町6-6～中央公民館東北角への一方通行の道路に交通安全啓蒙看板がなかった。	電柱巻付け形啓蒙看板を4枚製作取付ける。	即効は期待できないが子どもの飛び出し事故がないように折る。	巻き付け形看板なので脱落・ゆがみがないか注意する。	歩行者（児童）に対する注意喚起となり、安全につながった。	まちづくり・交通課 自治振興費
MTPフェスティバル支援事業	453 補助金 453	中学校関係者が中心となって進める住民交流の事業を支援する。夏と秋の2回、地域の子どもから大人までが楽しめる催しを開催する。	MTPフェスティバル・平和のつどい共に継続実施している。しかしMTPフェスティバルは大人主導（PTA・教師・コミュニティ等）で実行されていた嫌いがあった。	池田中学生主体の催しとなった感が強く感じられた。呉服小学校地域からの足の確保の為、バスも運行された。子どもの参加が多かった。	中学生諸君に主体性を持って参加することの喜びを与えたのではないかな。	生徒主体で継続開催できるように辛抱強くアドバイスする。	平成22年から始まった本事業は9回目を迎えた。フェスティバルの運営に中学生が関わること、生徒と地域住民が交流を図ることができた。毎年、多くの地域住民が参加し楽しむことのできるイベントであり、大変評価できる事業である。	教育政策課 自治振興費
キッズランド支援事業	104 補助金 104	池田小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	・平成26年度に支援を実施したが傷みが激しく数も減っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトバレーボール 40</li> <li>・ソフトテニスボール 72</li> <li>・ハンドポンプ 3</li> <li>・シャトルコック 12</li> <li>・シャトルコック練習球 12</li> <li>・テニスポンプ 2</li> </ul> を購入	・遊具の取り合いが少なくなった。	・子どもたちに大切に使用するよう、使用後の整備等を通じて指導していく。	キッズランドで使用する用品及び教材を購入したことにより、子どもたちが遊具を取り合うこともなく充実した活動を展開することができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	400 行事報償金 400	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	・継続して実施している。	・早朝まで雨が残る悪環境にもかかわらず地域住民の協力を得て排水を行ない実施できた。子どもの行事とちがもあい参加者は1,000人強にとどまった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のつながりの強化。</li> <li>・他地域の人達との交流。</li> </ul>	地域によって子どもの数が極端に差があるので対抗競技のルールの見直しが必要かも・・・。	事業実施により、地域スポーツの振興が図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	8,102	事業提案限度額	8,102千円	次年度繰越金額	0千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概 要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における 評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所 管 課 科 目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	204 電気使用料 44 設備保守点検委託料 160	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点での事故・事件に関する情報収集の手段がなかった。	交差点での情報収集ができるようになった。	防犯カメラがあることにより、事件の抑止効果が期待できる。また、事故があった時に客観的な情報源になっている。	監視地域のカバー率がUPしたが、まだカバーできていない地域が3割ほどある。今後の課題として池田市警察と協議を詰めていきたい。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域内会館備品整備事業（南畑会館）	212 庁用器具費 212	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	設置されている和机の損傷が激しく危険であり不便であった。	快適で使いやすくなった。	安全で使いやすくなり会の準備・進行がスムーズになった。	公共施設の備品の運営・維持・管理に尽力していきたい。			会館の利便性が向上したものと評価。積極的に地域で利用いただきたい。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費
地域掲示板設置事業	2,758 修繕料 2,758	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	まだ掲示板のない地域や雨ざらし・マグネット化できていない状況があり、早急に改善する必要がある。	掲示板を設置することにより空白地域にもコミュニティの活動内容や地域団体の情報を共有ができるようになった。硝子戸・マグネット化を10か所新設した。	地域コミュニティの活動内容・地域団体の情報をより多くの地域住民に知らせることができた。硝子戸・マグネット化をすることにより、より掲示しやすく、また使いやすくなった。	掲示板のない地域からの要望があるため引き続き掲示板設置をしていく。			今年度よりマグネットタイプの掲示板を採用し、より掲示しやすくなったものと評価。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内公園整備事業	486 修繕料 486	地域内公園の安全確保のための整備を行う。	東畑公園について、入口が大きな道路に面しておりボールなどが飛び出ると危険であった。	公園の入口にフェンスを設置した。	フェンスを設置したことにより、安全確保ができた。	今後も地域内公園の安全確保のため市と協議の上、尽力していきたい。			地域住民が安心して利用できる公園になっている。	農地緑政課 公園費
AED管理事業	359 消耗品費 51 器具費 308	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体1箇所（渋谷会館）の更新を行う。また定められた消耗品の交換をし、突然の疾病や事故に備える。住民には救命講習の受講を呼びかけ万一来るに備える。	4会館（上渋谷・下渋谷・畑・南畑）に設置したAEDは備品を適切に維持管理されている。	渋谷会館は本体を入れ替え、他は必要な備品交換を行った。	必要な拠点にAEDが設置されており、住民の安全安心な生活に貢献している。	AEDは引き続き適切に管理していくが、救命講習会などを通じて、より一層の安全意識の向上に努めていく必要がある。			共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来るようになる。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
秦野小学校スポーツ器具支援事業	464 校用器具費 464	秦野小学校のグラウンドのバスケットゴール設置を支援し、子どもたちの健康増進及びコミュニケーションの推進を図る。	他小学校にはグラウンドにバスケットゴールがあるが秦野小学校にはなく、子供達からの要望が多かった。	秦野小学校のグラウンド東側にバスケットゴールを設置し、安全に固定した。	子供達の利用率も高く非常に好評で、健康増進やコミュニケーション推進に貢献している。	教育委員会と協議し必要な備品整備に協力し、子供達の健全な育成に貢献していきたい。教育委員会とのコミュニケーションをより強化していきたい。			子ども達の利用率が高く、健康増進及び健全な育成に繋がっている。	総務・学務課 学校管理費
地域コミュニティ紙等発行事業	480 補助金 480	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	年3回発行の「秦野まちづくりだより」を写真も多くして見やすいものにし、行事にはより広くわかりやすく記事内容の充実にも努めた。	前年度に認知度調査の号外号を発行したこともあり、地域での認知度は高まっている。	わかりやすい紙面づくりは好評で関心や認知度も上昇している。地域行事の内容を写真も使い、より詳しく伝えることで地域内の活性化につながっている。	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動に努めたい。			写真と表をバランスよく配置し、読みやすい紙面づくりに工夫されているものと評価。	地域分権・協働課 自治振興費
地域ギャラリー維持管理事業	100 補助金 100	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品を掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	入替期間を1か月ごとに変更したことが定着した。地域の催しの写真なども使い紹介した。幼稚園の作品展示も継続的になっている。	会費の負担も軽減されスムーズに運営が行われている。地域事業の発信・住民の作品展示・地域イベントの写真などを多く展示し、広報活動に努めた。幼稚園、こども会などの掲示も多く好評である。破損したガラスを2枚入れ替えたことにより、安全できれいに運営できるようになった。	毎年、新しい作品が増えている。認知度がよりアップしている。通行人の方にもよく見ていただいている。	作品集めはまだ必要。今後も根気強く広報活動を続けていきたい。			地域の広報に寄与しているものと認識。引き続き事業継続されるよう期待するところ。	地域分権・協働課 自治振興費
校区盆踊り大会事業	230 補助金 230	スポーツ振興会と子供会等の共同開催である盆踊りを支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会・子ども会等で開催している。コミュニティ意識の高揚をはかる。小学校の耐震工事のため狭いグラウンドで開催した。	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。盆踊りの習得を促進するため小学校の体育館で練習会を行った。狭いグラウンドではあったがそれなりにコンパクトに集約されたいい会を行うことができた。	盆踊りを継続的に実施することにより、地域との親睦が図れ子供達の参加率も上昇している。練習会は好評で盆踊りの参加率向上に貢献している。	盆踊りの練習会を増やし踊りの習得率を高めていきたい。今後は広いグラウンドでのびのびと踊りを楽しんでもらいたい。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
地域イベント活性推進事業	660 補助金 660	地域の交流と地域活性化を図るため、フリーマーケット及び地域活動を推進・支援していく。	小学校の耐震工事のため、あおぞらdeはたのフェスタを渋谷中学校でおこなった。雨天のため参加人数は半減した。地域のイベントなどで使用する備品が不十分だった。	今年度もあおぞらdeはたのフェスタは渋谷中学校で行った。テントを購入し天板を入れ替え、備品が拡充・整備された。	あおぞらdeはたのフェスタを渋谷中学校で行うのが2年目になり周辺住民への認知度がより高まった。備品整備により、地域行事の円滑な活動に貢献できた。	今後はあおぞらdeはたのフェスタを秦野小学校で行う。地域住民の参加率の向上に向けてさらに努力していきたい。備品の維持管理の精度を向上させていきたい。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80 補助金 80	地域と学校が一緒に花を育て緑化を進め笑顔のあふれる地域にしていく。	今回で4回目の事業。渋谷中学校・地域の各団体と連携して行った。	保護者・保護者OB・教職員・地域の方々が参加し、18回の活動を行い、菊づくりを中心に草花の栽培に対して支援した。苗・土・肥料・鉢・プランターなどの用具も揃えることができた。	咲いた菊を中学校の文化祭で展示することにより来訪者を和ませた。あおぞらdeはたのフェスタでも展示・販売を行い、認知度は高まっている。また各会館・施設にも分けて喜ばれた。	今後も継続的に支援していきたい。			今後も地域と学校が自然を通じて、ふれあいの場を広げていくことに期待する。	農地緑政課 自治振興費
自然学習講習会・昆虫育成事業	100 補助金 100	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、幼虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	五月山へのハイキング、自然学習講習会、カブト虫養育場での幼虫掘り起し、腐葉土の入替を行った。	渋谷公園で育成教育を行い幼虫掘りをした。幼虫は150匹余り過去最高の育成率であった。昔遊び（風揚げ・紙ヒコーキ飛ばし・コマ回しなど）をした。腐葉土の入替を行った。9月に観察日記を提出してもらいギャラリー掲示板に展示した。	幼虫を掘り起こし自宅で幼虫育成観察日記を作成することにより自然の営みを学習できたと思う。養育場の土の入替をすることにより、土壌の清潔さが保たれる。	かぶと虫の養育を通じて子供達に自然の大切さを訴えていきたい。			毎年実施している恒例行事である。カブトムシを通じ、子ども達の自然学習の良い機会になっている。	農地緑政課 自治振興費
秦野地域うたいっばい運動支援事業	220 補助金 220	秦野小学校区の子どものための聖歌隊が町の中を練り歩き、秦野小学校でコンサートを実施、歌うことにより学年を越えて友情の絆を深め、地域内の交流を深める。	初めての実施で練習や会場設営に戸惑った。地域への広報活動、特にキャロリングについては改善の余地がある。	公募で集まった老若男女の団員が地域をキャロリングして小学校の体育館でミニコンサートを行い、地域交流を図った。南畑公園でのキャロリングは好評であった。	事業を継続実施することにより、定着しつつある。うたいっばい運動に対する地域住民の理解も深まり音楽文化の普及に貢献できている。	団員の拡充と広報活動の強化を図りたい。歌うことによりみんなを笑顔にできるような、今後も継続して支援していきたい。			公募で集まった様々な世代の団員が「うた」を通して地域を歩き、住民と交流を深めることができた。うたいっばい運動に対する地域住民の理解も深まり、音楽文化の普及に貢献できている。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費

各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。

着実に協議会員を増やしなが、精力的に活動いただいており、地域内での認知度も高まっているものと評価。引き続き各種団体との連携も図りながら、地域全体としてのコミュニティづくりに寄与していきたい。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

キッズランド支援事業	30	補助金	30	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具等がまだまだ足りない。古いものの入れ替えができない。	文具や遊具等が増えた。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	まだまだ文具等が足りないし古くなっているので、継続的に支援する必要がある。	教育センター 自治振興費
地域内子ども会等活動支援事業	600	補助金	600	校区内で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して取組を行う。	姫路城見学で歴史の勉強をすることができた。子ども会全体でいちご狩りをした。野外活動や自然に触れ合う機会が少ない親子が増えている。	能勢の自然の家で火をおこしたり食事を作る大変さ体験した。皿の絵付けを行った。	野外炊事を行うことにより生活力を培い、自然の大切さと厳しさを体験することができた。物づくりの楽しさを体験してもらった。子ども会相互の知識の共有を図り親交を深めることができた。	バス代、入場券の高騰に対応して引き続き支援していきたい。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	240	行事報償金	240	地域のスポーツ振興会と子供会等の地域団体が開催する事業を支援する。					雨天中止
計	7,323			事業提案限度額 7,777千円	次年度繰越金額 454千円				生涯学習推進課 社会体育振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
地域掲示板設置事業	250 修繕料 250	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	今回の設置場所は荘園地区で地域コミュニティの行事、事業等は共同利用施設の掲示板を借用していたが老朽化し、小型で掲示に困難、不便を強いられていた。	地域の行事、コミュニティの行事等を地域住民に告知することが出来るようになり、コミュニティの事業等に関心を持つ人が増してきた。	掲示板を見て行事に参加したという地域住民が増加した。	校区の中でも少し離れた場所に住民の方々に行事等を知っていただく為離れた場所こそ必要を感じるが設置場所 管理の問題が残る。			地域内の広報に寄与しているものと認識。設置環境を含め、地域での管理を徹底いただきたい。	地域分権・協働課自治振興費
AED管理事業	42 消耗品費 42	使用期限が切れるパッド、バッテリーの交換を行う。	AED機器については有効且必要な機器であるが緊急使用時誤動作がないように部品使用期限が来た部品交換必要性があった。	高齢者等利用の多い、各会館に設置している。利用されている地域住民の安心器材として実物を見ることが出来、安心意識も高まっている。	設置場所を知り、現物を目にする事が出来るようになり安心感がある。	医療機器なので使用期限があるので交換等は必要と考えるが本体等の交換となれば高額になるので維持管理については市で管理をお願いしたい。設置されているが使用するとなると不安が残る。今の所屋内に設置されているが実際に設置されていることが望ましいと思う。使い方の講習等も定期的にする必要がある。			共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来るようになる。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていただきたい。	健康増進課保健衛生総務費
街路灯強化事業	365 電気使用料 15 修繕料 350	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	北豊島地域に於いて、道路照明が不十分で道路狭小など道路交通、防犯上問題があった。	街路灯の設置により、道路狭小なところも防犯上 明るくより安全になった。	街路灯設置により夜間も明るく通行でき、防犯上も安全になったと地域住民からも喜ばれている。	今後も地域から要望等もお聞きし、設置必要のある場所については年次ごとに提案設置を進めていきたい。			街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全が図られている。	道路・河川課交通対策費
道路安全対策事業	1,400 修繕料 1,400	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	北小校区 周辺道路では通過車両も多く、通学時の安全安心確保が保持できていない。	北小児童通学路の路側にグリーン塗装をした。	通学路の路側にグリーン塗装をすることによって児童 車両運転者ともに注意を喚起することが出来た。	予算があれば短期間で指定通学路のグリーン塗装を完了したいが毎年計画的に実施していきたい。地域における登下校の児童の安全確保はもちろんですがこれから迎える高齢者社会 ハンデキャップのある人への対策として安全柵や交差点表示や点字ブロックの設置も考えていきたい。			歩行者に通行帯確保による安全意識の向上及び通行車両への運転マナーの向上一定の効果があったと考える。	道路・河川課道路維持費
きたてしまプラザ活用事業	2,461 補助金 2,461	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教室、子育て支援活動を行う。また、機械室を整備し憩いの場喫茶コーナーの設置準備を行う。	コミュニティ推進協議会の拠点 又 各種文化教室開催場所 として十分に活用されています。(利用回数及び参加者1,448回 17,039人 教室242回 5,534人)	今後も積極的に利用していただき効率的な活用に努めます。	他の協議会からも注目され、地域住民にも認知され、利用者も多くなってきております。整備後空調室を談話室に再利用すべく設備等予算を考量中。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。改装費の関係で数年かかるが近い時期に高齢者 地域の方々が気軽に利用できる談話室(喫茶室等?)を開設予定。			前年度に比べると、利用者が約500人、文化教室の参加者も回数が増えましたが、北豊島地域の拠点として、地域住民の活動に積極的に活用されていると認識しています。	資産活用課自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	600 補助金 600	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	これまでと同様に隔月に広報紙を発行し、地域住民との情報交換の媒体とする事を目的にしました。(5回/年間)	平成28年度も目標通り隔月に広報紙を発行することが出来ました。	地域のコミュニティ紙として親しまれ、定着していると思います。	推進協議会からの広報紙としての側面のみならず、住民からの投稿が掲載できる様、努力していきます。今後はホームページを活用し、活動状況イベント等をPRして行きたい。			本年度も5回の発行で、地域のタイムリーな情報を発信いただいているものと評価。	地域分権・協働課自治振興費
きたてしまプラザまつり事業	30 補助金 30	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	プラザを利用している各教室の発表の場や、プラザを利用する地域の住民が一同に会する機会が少なかった。	お互いに分からなかった活動状況が分かり、運営の参考になる事が出来た。	交流を通じ、池田の文化 地域の歴史などにも触れ又食事やゲームの時間も世代を超えて楽しんだ。	マンネリ化しない様に新しい企画を工夫していきたい。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
地域行事活動促進事業	75 補助金 75	校区盆踊り大会と地域内行事の支援を行う。	日本の伝統行事のまつり、盆おどり等住民のコミュニティが希薄になっている昨今 住民の対話活性を計るべきである。	まつり 盆踊り等 人口の減少、高齢化に伴い資金面で取りやめる所もあったが少額ではあるが助成金を出すことで住民対話も高まり少しずつであるが活気ある行事が行われるようになった。	地域の行事に参加者も増え、明るく より良い街づくりができると思う。	地域 場所により条件の違う状態にあると思うのでそれぞれの助成金支先の意見等聞きより良い方向に配慮する必要があると感じる。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
サイクル&エコカーニバル運営事業	30 補助金 30	サイクル&エコカーニバルの活発化を図り、新省エネルギーについて体験し学んでいただく。	毎年、宣真高校にて、交通・環境に対する意識向上を目的に開催されていたが、本年は工事の為、池田小学校にて実施。北豊島地域コミュニティ推進協議会の地域へ活動(人と環境にやさしいまちづくり)浸透を目指す。	10/30サイクル&エコカーニバルに参加、エコ活動の推進と協議会のPRを行うことができた。サービス出店にてコーヒー320杯完。企業参加によるゲームや体験を通じマナーやエコ活動を学ぶ。	新省エネルギー、3Rの重要性など“交通・環境・安全”について学び、交通や環境に対する意識向上、今後の地元への活動浸透と発展が期待できる。	現在の参画状況はサポーター的な要素が大きい。コミュニティ協議会の存在も認められたがと思われ、今後、パネル展示・ディスカッションも必要。地域活性化への積極的な取組PRを行う。※来年以降出店に関しては、開催先により見合わせも検討。			今年度は、地域外(池小)での開催となったが、貴協議会の地域外での活動PR並びに本行事の活性化に有効な事業となった。	環境政策課自治振興費
環境美化ウォーキング事業	39 補助金 39	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化運動を展開する。	北豊島地域内のゴミ等を拾いながら、ウォーキングを通じて、健康・地域交流を行い、あわせて「ゴミの発生場所と分析」を実施し「ゴミ削減美化活動」を実施する。地域住民と協力しながら、ゴミを出さない為の啓蒙活動を強化する。	環境にやさしい街づくりを目指し、ゴミ分析表の作成と啓蒙看板の設置 1) 老若(多数の小学生の参加有り)男女の参加を得「ゴミ拾い」を行う。 2) 平行して、健康改善の為2km程度のウォーキングを実施。 H28.7.17(雨天中止)・参加者70名、 H28.11.23豊島南・参加者65名	・地域における美化活動を積極PR ・環境美化活動を継続することによる地域の変化(良化)を肌で感じ自主的活動を拡大する。 ・ゴミ発生分析の作成と啓蒙看板の設置により、問題対策の把握。 ・ウォーキングに目的を持ち、気持ちの変化・見る目の変化・四季の変化を感じ、地域の新たな一面を見つける。 ・小学生、中学生の参加により継続性を期待。	・ゴミ分析結果をどう生かす?ゴミ撲滅を目指すことが課題であり地域活動家、学校との連携をとる。 ・子供～高齢者まで、楽しく参加して貰える環境づくりの継続を心がける。	各部会でまとめられていたものを役員会で決定する。		本事業は、幅広い年齢層の参加による広範囲(2km)に及ぶ美化活動として評価できる。収集されたごみの量や種類を写真やグラフでまとめ、参加者や地域の方への啓蒙材料に活用していただきたい。	環境政策課自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	楽しい食事ができ、環境に配慮した家計に優しいクッキングスタイルの講習会を開催する。	<キッチンからできる地球への思いやり>をテーマに毎日の食材調達から料理、そして楽しい食事、後片付けまで、環境に配慮する（エコロジー）だけでなく、家計にも優しい（エコノミー）これからのクッキング・スタイルを先取りの継続と浸透。	11/13に実施(1回/年) 参加者26名(地区イベントとバッティング)きたてしまブラザにて3名のヤサイソムリエの方に豆苗を使った中華料理とりんごの食べ比べ(産地比較)等の作り方を「今日からできるエコキッチン」実践。小学生～70歳代まで、幅広い年代が楽しく学習し料理とりんごの知識を習得。	<食材の調達～調理～食事時の努力～後片付け>まで一貫して、エコロジーを実践する。日頃何気なく遣っていることであるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらえた。	家庭でも次の事項に配慮して貰う事を心がけて貰う。季節を味わう配慮。 ・食材を調達…近い産地の食材を近くの店で調達 ・調理…油使用を控える。加熱・冷却しないメニューを考える。食材は使い切る。食べられる分量を考慮。 ・食事の時…調味料を控える。食べ残さない。 ・後片付け…洗う前にナブキン等で油分を拭き取る。とぎ汁やゆで汁を有効に使う。	ヤサイソムリエを講師に招くなど工夫をこらした企画・運営されており評価できる。最近クローズアップされている食育やフードロスも視野に入れた事業展開を希望する。	環境政策課 自治振興費
地球にやさしい思い出作り事業	30	補助金	30	廃棄天ぷら油を利用し、凝固剤等で固めエコキャンドルを作成・点灯し、住民の憩いの場づくりを行う。	「みんなで広げるエコキャンドルの輪」廃油の再生利用を目的とし、多くの参加を頂き、廃油ローソク作りを体験し…準備～キャンドル点火～後片付け(分別回収を含む)…「人・文化・自然」のコミュニケーションをより強くイベント化を計画。	昨年最初のテーマ「クリスマス」から、今年はメインテーマを「バレンタインデー」とし2/11に第2回目を実施 参加者・44名 廃油リサイクルによる「エコキャンドル」みんなで広げる地域の輪 第2回ミニフェスタを開催しました!! 多くの子供さんが参加し、興味津々楽しんでもらえ、来年は夏をテーマに、イベント盛り上げが期待できそうです。	楽しい時間を共有し、「人・文化・自然」のコミュニケーションをより強くして地域の輪をもっと大きく広げましょう!!との感触は掴めたかと思えます。廃油を活用したローソクづくりで楽しさを体感していただいた。	・小規模であっても近隣の住民に喜んでいただけるようなテーマを考える。上記に考慮し、参加者の協力と理解を得る事。 ※北豊島小学校とのコラボを相談中です。 ・火気厳重注意。 ・やけどに注意。	廃油再利用によるリユース啓発と、コミュニティー活性化に貢献する事業と認識。新たな地域行事と連携し啓発の範囲を広めていただきたい。	環境政策課 自治振興費
公園花いっぱい整備事業	50	補助金	50	地域の子供も安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。	地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供しており、環境維持が必要である。	6/18、11/23の2回実施 園芸高校の先生/生徒さんの指導の下、地域住民の皆さんと花壇に季節にあった草花を植替え憩いの場としての維持管理を実施。	地域住民の参加により、季節にあった花を植える! 観賞する! ことにより人の心に潤いを与え、当初は花泥棒が多かったが本年は大幅減少 子供が安心して遊べる安全な清潔な公園と喜ばれている。	年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの協力を今後もいただく事が必要。近隣の方の積極参加をいただける様努力する。花壇の維持管理を行う。同公園の低木植木 ノウゼンカズラ等の定期的に手入れ剪定を市にお願いしたい。	豊島北2丁目公園の花壇の手入れ・管理を園芸高校と協働で実施しており、憩いの場としても活用されている。	農地緑政課 自治振興費
豊島東公園及びバスケットコート維持管理事業	194	補助金	194	バスケットボール等を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに地域住民の憩いの場を提供する。	地域住民 子供たちが安全に遊べる場 青少年がバスケットゲームを通じコミュニケーションの場としてコート及び遊具の維持管理。	バスケットコート ゴールネット 遊具の安全チェックをし、整備された環境を維持できている。	土日には多くの住民 青少年がバスケットを楽しみ、健康増進に役立っている。	完成後経年劣化進み、コート シュート板等の修理維持が必要。	バスケットコートを含めた公園の一部管理を実施することで、良好な状態で保たれている。	農地緑政課 自治振興費
子育て支援事業	712	補助金	712	週3回あそびの広場を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	継続事業ですが当地域には以前から未就園児に対して子育て施設がなく、公的支援のない中、子育て中の母親より子育ての仲間 グループ設立の要請でロケットキッズが設立され、当協議会が事業として支援をする。	木田弘子氏中心にブラザ内の一室(ふれあいルーム)を開放し、テレビ等によるシアター劇場 童話の読み聞かせや市より支給のおもちゃ等での遊び、秋の運動会 芋掘り クリスマス会 夏の水遊び等ロケットキッズが運営され、平成28年度未就園児とその保護者3,878名の参加がありました。子育ての悩みなど話し合え、好評を得ている。昨年度より指導員有償ボランティア制度を導入、一部自主運営費にて処理。個人相談室や3歳児中心の『びびよクラブ』等開設	母親たちにも好評で幼児を明るく元気に育て、自分自身の子育て悩みなど共通した話題が出来、参加者も年々増えつつある状況で事業効果は上がっていると思います。	木田氏を中心に事業活動を展開しているが内容から見て有償ボランティアに切り替えたが限度があるので検討を加えたい。出来れば何かの形で市の支援をお願いしたい。	ひろば的な役割だけでなく個人相談室や季節にあった事業等盛りだくさんの内容を、親子で楽しみ安心して利用できる場として地域に定着している。母親間の口コミで利用者は増加しており、北豊島中学校区支援推進協議会等と他機関と連携しながら地域に根付いた活動を広げてもらいたい。	子育て支援課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金	150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。					事業実施により、地域スポーツの振興が図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	6,568			事業提案限度額 8,268千円	次年度繰越金額 1,700千円					



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

これは地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概 要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所 管 課 目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務局	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	503 庁用器具費 補助金 426 77	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	1. 地域内の共同利用施設「呉服会館」の会議机が老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。 2. 地域内の施設「室町会館」のイス、が老朽化しているため、利用者から買い換えるの要望があったので購入した。	共同利用施設「呉服会館」「室町会館」の老朽化した備品を新規に買い換えることにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換えることにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い換えを検討していきたい。			地域分権・協働課 共同利用施設管理費 自治振興費	
地域掲示板設置事業	263 修繕料 263	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内(桃園)にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化した。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることが出来る。今後も広報活動の充実を図る。			地域分権・協働課 自治振興費	
道路安全対策事業	215 修繕料 215	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでいる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、死角が解消され安全性が向上した。	これまで見えにくい人や車の往来がカーブミラーの設置で確認でき、子どもやお年寄りを交通事故から守れるようになった。	地域内には、まだまだ危険な箇所が点在しているため、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。			道路・河川課 交通対策費	
街路灯強化事業	390 電気使用料 6 修繕料 384	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みでうす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内(桃園町内会)に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置することで、地域住民から安心して夜間の通行ができることの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。			道路・河川課 交通対策費	
子育て支援事業	170 修繕料 170	呉服小学校の体育館側女子トイレに子どもホルダーを設置することにより、子育て支援を推進する。	地域内のくれば小学校の一般開放トイレに、おむつ用ベッド、子どもホルダーの設置の要望が子育て世代の市民からあった。	地域内のくれば小学校の一般開放トイレに、おむつ用ベッド、子どもホルダーの設置することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	子育て世代の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。	他の共同利用施設トイレにも設置を検討していきたい。			総務・学務課 学校管理費	
呉小吹奏楽クラブ支援事業	260 校用器具費 260	呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器(トランペット)を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。			総務・学務課 学校管理費	
合同防災訓練事業	130 補助金 130	不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、昨年から8自治会を実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	呉服小学校の校庭及び体育館を活用して、合同防災訓練(8自治会)を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越えられる事ができるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。			危機管理課 自治振興費	
青パト隊パトロール活動事業	205 補助金 205	青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青パト隊による呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青パト駐車を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができています。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。			危機管理課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	514 補助金 514	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解してもらっている。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告を周知することにより、協議会の活動について理解が得られた。	結果、校区に居住する住民から協議会への参画希望が増加し、特に若い世代の申込からの新入会員が得られた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。			地域分権・協働課 自治振興費	
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	600 補助金 600	呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設呉服会館の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。			地域分権・協働課 自治振興費	
くれば祭り開催事業	1,713 補助金 1,713	くれば祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人の繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれば地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	地域内の各種団体の協力を得て、ステージをはじめ模擬店等で盛り上げていただき、地域内のコミュニケーションの充実を図ることができた。	今年度は防災訓練と同日開催にし、地域内の幅広い年齢層に参加してもらい、祭りを盛り上げることができた。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。			空港・観光課 自治振興費	
リユース活動事業	20 補助金 20	家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書き忘れてしまっているような衣料品は店舗での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする。	とても好評で、来年もぜひ聞いてほしいという言葉を受けた。	当日手伝って頂いた方に、コミュニティ推進協議会に参加登録していただいた。	開催回数など検討したい			環境政策課 自治振興費	
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	130 補助金 130	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	28年度より引き続き実施している事業で、地域と学校が一緒に花を育てる活動を支援する。	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。	呉服小学校と地域が一緒になって花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを感じ、感性豊かな心を育む事ができた。	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していきたい。			農地緑政課 自治振興費	
MTPフェスティバル支援事業	200 補助金 200	池田地域コミュニティ推進協議会と協働で、MTPフェスティバルの支援を行う。	池田地域コミュニティ推進協議会と共に、MTPフェスティバルの支援を行う。	小学校区から中学校区へと範囲が広がると、MTPフェスティバルの支援を行う。	MTPフェスティバルに当協議会が参画することでコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事への報奨金も検討しながら、フェスティバルが活性化できるよう努める。			教育政策課 自治振興費	

各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。

新規事業であるリユース事業も好評であったと聞いており、子ども達を対象とする事業の更なる充実がうかがえる。拠点施設のあり方やくれば祭りの補助のあり方について、今後地域内で精査していきたい。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

ウォークラリー事業	50	補助金	50	地域の子ども会や各種団体と協働でウォークラリーを開催し、呉服校区の子どもや幅広い世代間のつながりを深める。	呉服地区の子ども達と地域の人達との繋がりを深め地域の活性化を図る。	呉服小学校区域内の子ども達とその保護者、及び会社が所在する社員とその家族を対象に校区を12ブロックに分けて、3km、5km、8kmの組み合わせでウォーキングを楽しんだ。	呉服校区の子ども達と地域の人達とが、我が町を見直す機会と新たな発見や危険箇所を再確認しつつ家族友達の親睦を深めつつ、健康促進になった。	今後も安全を配慮し継続していきたい。		暑さ、雨天等による中止もあり、実施は大変と思うが、今後も安全を重視してもらいたい。	生涯学習推進課 自治振興費
グラウンドゴルフ実施事業	70	補助金	70	高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。	グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。	年3回のグラウンドゴルフ大会を開催することにより、地域住民同士のコミュニケーションが図られた。	参加者は会を重ねることに増加し、今年度は小学生の参加も見られ、グラウンドゴルフを通じてのコミュニケーション作りは効果あり。	若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。		子どもの参加もあり、評価できる。	生涯学習推進課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金	350	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償報奨金とも検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化できるよう努める。		事業実施により、地域スポーツの振興が図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	5,883			事業提案限度額	10,829千円	次年度繰越金額	4,946千円				



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概 要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所 管 課 科 目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	2,958 修繕料 2,958	安全で安心な暮らしの実現に向け、さらなる街頭犯罪件数の減少を図るため、防犯カメラを設置する。	一部死角になっていたところ、及び、犯罪者の逃走経路抜けモレが有り。	少しづつではあるが、犯罪者の逃走経路の減少及び、設置していると言うだけで、犯罪件数の減少、並びに犯罪者の早期逮捕につながる情報が集まりやすくなった。	開示請求回数が増え、検挙率がUP。	設置カメラの電源確認(定期的な巡回)を実施			地域の危険箇所にて防犯カメラを設置することにより、犯罪の発生を未然に防ぐ効果を期待する。また継続的経費について理解し、設置場所について十分の議論・調整の上、提案を期待する。	危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	266 電気使用料 66 設備保守点検委託料 200	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	一部死角になっていたところ、及び、犯罪者の逃走経路抜けモレが有り。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三の目(者)による期間中(夏休み/大型連休)の見守りが可能となる。	開示請求回数が増え、検挙率がUP。	リースのような、安価な設投で、管理費の低減。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域防災体制強化等事業②	380 器具費 187 補助金 193	花園会館の敷地に防災倉庫を新設し、防災備品を備蓄する。	防災備品が無かった。	少量ではあるが揃えられた。	効果あり。 防災訓練及び災害時に備品をフル活用出来る。	地域の特性を考慮しながら、備品を増やしたり、定期交換を実施しながら、うまく運営をする。			訓練を行い、災害時に地域での防災力向上を期待する。地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 災害対策費/ 自治振興費
地域防災体制強化等事業③	255 消耗品費 255	災害時における近隣地域住民間の連帯感のある自主的運営活動ができるように環境整備を行う。	緊急時に誰が何をすべきなのか不明確であった。	組織網の整備及び、緊急時の対応(訓練ではあるが)が出来た。	地域住民及び学校等の協力の基、連携をしながら訓練も出来た。	各種の災害及び時間帯に即対応出来るか、訓練内容(夜間含め)を変えつつ継続実施する。			訓練を行い、災害時に地域での防災力向上を期待する。地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 災害対策費
AED管理事業	42 消耗品費 42	使用期限の切れるパッド、バッテリーの交換を行う。	期限切れ、及び、バッテリーへの不安あり。	機器への不安解消	緊急時、安心して使用が可能。	幸いにも、殆ど出番がなく、使用方法がわかる経験者(訓練実施者)が減りつつある中、AEDに替わる一番有効な心臓マッサージ方の訓練がいつでも出来る機材の設置。			共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来ると思える。今後も引き続きAED設置・管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課 保健衛生総務費
地域防災体制強化等事業①	673 補助金 673	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備するため、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をすべきなのか不明確であった。	組織網の整備及び、緊急時の対応(訓練ではあるが)が出来た。	地域住民及び学校等の協力の基、連携をしながら訓練も出来た。	各種の災害及び時間帯に即対応出来るか、訓練内容(夜間含め)を変えつつ継続実施する。			訓練を行い、災害時に地域での防災力向上を期待する。地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	400 補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	年間各部が行う事業内容を住民にPRすることでコミュニティの存在と役割を知ってもらう為に行う事業。	年間2回の発行、旭丘と石橋地域がお互いの地域コミュニティの活動内容と地域性を少しずつ知ってもらえた。	紙面を通して地域に必要なニュース、学校と地域のつながり、「詐欺」に引かれない等、PR出来た。	地域コミュニティの中の事業が継続型が多い、紙面が報告の記事ばかりになる、話題性のあるものを扱いたい。			多くの写真が配され、目をひく紙面づくりの工夫がされている。更なる地域情報の充実を期待。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	400 補助金 400	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	石橋地域内の各種ボランティア団体が会議資料やチラシを各々がコンビニ等でコピー費用や時間が掛かっていた。	会議資料作成費用と時間が軽減された。各団体の用具類を責任者宅保管から一括管理できて、交代の都度移動する手間が省かれた。	各団体の印刷費用、時間が軽減され、より活動が活発に経費や時間がその他の活動に生かされる事が出来た。団体の道具類も分散保管や散逸を回避され責任者の負担軽減が計られた。	当機の設置場所が2階廊下の為、印刷音が他部屋に響き 近隣の部屋の使用者からクレームを受けることがあるため設置場所を考えたい。			共同利用施設の利用者の迷惑とならないよう、対応いただくようお願いする。	地域分権・協働課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会啓発事業	197 補助金 197	石橋地域コミュニティ推進協議会の活動について知ってもらうため、横断幕のぼりを作成してPRする。	何処の誰が企画し行事等実施しているかわからなかった。	のぼりや横断幕を見ることにより認知度が上がっている。又、行事へ自ら参加してみようとする人員が増えた。	効果あり。 のぼり及び横断幕をフル活用する。	決まった役員のみでの定番企画であり、自ら企画しての新しい企画提案及び自主参加率が低い為、もっと多くのPRが必要。			協議会の認知に一役買っているものと評価。引き続きPRに努めていただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	400 補助金 400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	当事業も地域内の活動が浸透し、年毎に参加者が増え狭い、照明が暗いとの意見が寄せられて、厳しい状況が続く中、電気設備や備品の老朽化に苦慮していた。	公園周囲や橋周りに、目立つようにポール、コーンを配置し安全意識を喚起することで、大きな事故もなく終えられた。	運営を手伝う人、石橋小、中学校の先生方や夜店参加する団体、参加者が年々増加し、盛大に行われコミュニティ活動行事が充実した。	橋の老朽化が進み、設置、解体に難儀することが多く、新調、購入して用具類の充足を図る必要がある。			各団体がそれぞれに機能し、活動いただいているものと認識。今後も、地域全体に広報を図りながら、地域の活性化に寄与していただくことを期待する。	空港・観光課 自治振興費
地域美化整備事業①	104 補助金 104	美しい街を目指すため、啓発用ポスターやチラシ等を作成し、地域住民のモラルの向上を図る。	①啓発ポスター 100枚作成 風雨による破損有り ②タバコの吸い殻 通学路を含む一般道多々散乱 ③美しい街づくりポスター1200枚作成 毎年雑草、枯れ木当然発生、敷地内、溝、道路脇汚れてる	前年度より破損枚数減少 年間ポスターのメンテ47枚、新規貼り付け箇所6箇所 タバコの吸い殻確認は難しい 小学校で校外学習の一環として校区内3箇所清掃奉仕をしよう。タバコの吸い殻だけでも3日間650本以上捨てた人の無節操が嘆かわしい。自宅はそれなりにキレイになった。	メンテ作業と新規貼り付け箇所増が効果を上げる 携帯灰皿配布を続行してタバコを吸う大人の自覚をうながしたい。 美しい街づくりに共鳴して頂き敷地内の美化意識が定着して来た。	3つの美化整備事業は、各々の自覚を促すために引き続き続ける。			各団体がまとめたものを、役員会で決定する。	環境政策課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	一般の燃えるゴミとして処分されていたペットボトルキャップ資源意識が低く、ゴミの減量意識もうすかった。	数年続けている中で住民のリサイクル意識の向上がみられる。キャップ(全国)はワクテンへの方向が多い中、国内でのリサイクル活動を通して身近なリサイクルとなっている。	回収量は昨年より減ったことは、市内あちらこちらで回収活動が活発によるものと考えられる。容器施設の増加、プランター以外のパケツの商品は更にPRとなる。	キャップで回収活動から地域の環境を考える切っ掛けになり美しい地域、まちとなることをめざす。	リサイクルの推進と啓発に有効な事業である。収集量や商品化の実績などをPRに活用して欲しい。	環境政策課 自治振興費
地域美化整備事業②	50	補助金	50	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、地域の幼稚園や小学校と協力しながら花を育てていく。	公園の花壇、前年度拡張した、ロープブロック等歪みあり花が枯れ、落葉も花壇にももれて来た。地域の幼稚園、小学校、中学校、施設へ花の鉢贈呈	花壇整備破損分は取り替えた。前年の花の根、落葉除去。春、秋の花の苗植え付け。石橋保育所、石橋中学校、万寿荘、白寿荘、セゾン、オレンジ池田、花咲21、異老健の各施設へ花の鉢3セット贈呈。石橋小学校、花の苗50株贈呈、石橋公園内16鉢設置	公園の花が咲くと通りすかりの皆さん満足されていました。各施設からは、喜んでいただけました。施設の道路側に設置依頼もしておきました。石橋公園内設置も花壇同様満足していただきました。ペットボトル事業と花の鉢と、うまく合体出来ました。	現在石橋公園の花壇1箇所、今後2.3箇所を増したい。他の施設からも要望有り。次年度以降も規模を大きくしていきたい。	地域の幼稚園や小学校など各施設へ花鉢の配布を行うことにより、地域緑化に貢献している。	農地緑政課 自治振興費
公園整備等事業①	74	補助金	74	公園が憩いの場、遊びの場、集合の場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。	公園の花壇、前年度拡張した、ロープブロック等歪みあり花が枯れ、落葉も花壇にももれて来た。地域の幼稚園、小学校、中学校、施設へ花の鉢贈呈	花壇整備破損分は取り替えた。前年の花の根、落葉除去。春、秋の花の苗植え付け。石橋保育所、石橋中学校、万寿荘、白寿荘、セゾン、オレンジ池田、花咲21、異老健の各施設へ花の鉢3セット贈呈。石橋小学校、花の苗50株贈呈、石橋公園内16鉢設置	公園の花が咲くと通りすかりの皆さん満足されていました。各施設からは、喜んでいただけました。施設の道路側に設置依頼もしておきました。石橋公園内設置も花壇同様満足していただきました。ペットボトル事業と花の鉢と、うまく合体出来ました。	現在石橋公園の花壇1箇所、今後2.3箇所を増したい。他の施設からも要望有り。次年度以降も規模を大きくしていきたい。	石橋公園の芝生の植栽と花壇の花苗の植栽により、地域住民の憩いの場になっている。	農地緑政課 自治振興費
交通安全モラル啓発事業	50	補助金	50	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。	自転車も軽車両であると言う認識も乏しく、標識の見方及び自転車の正しい操作方法等知識不足である。	幾分か理解できたと思われるが、当日だけであり、翌日以降実施できているかどうか定かではない。継続訓練が必要である。	即効性は無いが、毎回実施することが必要と考える。又、子供達だけではなく、家族全員の協力が必要であり、特に指導しなければいけない両親(特に母親)、おじいちゃん/おばあちゃんの運転マナーの悪さが目につく。	子供達を中心に継続実施はするが、指導者である両親・おばあちゃん及びおじいちゃんへの指導が急務と思われる。他、保険への加入促進、並びに自転車の点検等地域の自転車店様のご協力の基、展開が必要である。	自動車等への認識を深め、事故減少及びマナー向上につながった。	まちづくり・交通課 自治振興費
見守りパトロール隊強化事業	250	補助金	250	地域の安全・安心の向上のため、見守り活動を支援するとともに、犯罪抑止を図る。	23年度に安全員用にジャンパー式を作成したが夏には着用が難しく私服で行い、通行人に埋没して子ども(児童)や安全員共に危険な状態であった。	初夏から初秋用に赤色ベスト型を作成した。遠くからでもはっきりと見守り活動が判別できるようになった。	色が赤く目立ち、涼しく着用することが出来、車や自転車の人たちからもはっきり分かるので危険回避出来る。地域コミュニティ推進協議会やいしばし学園の周知を計れている。	見守り員と子ども(児童)等にも分かり易くなったので安全確保に努め、挨拶や交通ルールをしっかりと指導を行っていきたい。	見守り隊の方々が赤色ベストを着用することで、色が目立ち、車や自転車の人たちからもはっきり分かるので危険回避することが出来る。さらに、子どもたちは安全に登下校することができ、保護者や地域住民も安心して子どもたちを送り出すことができています。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
異学年交流事業	250	補助金	250	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	子ども会、PTA、地域の人(校区内にあるボランティア団体)は個々に活動をしているが、共に協働で活動する機会があまり無く交友が希薄になりつつあった。	子ども達や若い保護者、地域の人達、高齢者住民とが準備会議や事前準備、当日の運営を手助け等機会が増え顔馴染みになり挨拶する光景が増えた。	交流事業で多くの人から協力の申し出があり、多くの人に参加して頂き、美味しく、楽しく、可笑しく、参加者全員が楽しい時間が過ぎた。今後も継続的に開催して欲しいとの要望する声が多くあった。小学校耐震工事関係者からも照明等の協力を得た。来場数約750名	交流事業の認知度が上がり多くの人に参加して頂いた。参加者が花火を楽しみにされているため、中弛みに配慮して、より家族ぐるみで参加出来る事業内容とした。	子ども達や若い保護者、地域の人、高齢者住民等が準備や打合せ、当日の運営の手助け等、年代を越えた親密な交流が図れた。また交流事業の認知度が上がり、多くの人に参加し、今後も継続的に開催して欲しいとの要望する声が多くあった。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。					事業実施により、地域スポーツの振興が図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	7,079			事業提案限度額	10,485千円	次年度繰越金額	3,406千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概 要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所 管 課 科 目 (目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	1,183	電気使用料 7 修繕料 1,176	安全で安心暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	カメラの設置について、費用対効果等の疑問を呈する意見もあったが、人間関係の希薄化、スピード化、犯罪の抑止効果を期待して設置を始めた。	当地域は市内でもとりわけ犯罪の少ないところではあるが、危機管理課の要請による開示の立ち合いは年間7回を超えた。	住民の間にも、設置に対する認識が広がってきた。当初は犯罪、交通事故を想定していたが、失踪等についても用途が拡大してきた。	管理、運営の正確化、迅速化を図り、結果についてのフォローがあれば今後の地域防犯の一助になると思います。			危機管理課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	194	電気使用料 34 設備保守点検委託料 160	防犯カメラの維持管理を行う。	平成28年度は平成29年3月に2台設置して、それまでは8台を設置、稼働していた。	平成28年度から保守点検委託料が徴収されるが、効果のほどを期待したい。		いくらカメラの台数を増やしても、管理体制の齟齬や取付業者の不手際があつては期待するだけ、落胆が大きい。			危機管理課 自治振興費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	主要通学路に設置してある緊急通報装置の電気料金等。	設置場所付近における犯罪、事故等は無い。	成果はある。	いたずらによる警報音により、近隣への迷惑がたまに生じることがある。			危機管理課 自治振興費
AED管理事業	616	器具費 616	使用期限が切れる本体2箇所（五月丘会館・7'ソール(五月丘2)）の更新を行う。	使用期限が切れる本体の更新を行う。	五月丘会館、セブンイレブン(五月丘2目)の更新を行う。	未だに効果の程は聞かない。	費用対効果を考えると、台数の拡大は避ける方がよい。			健康増進課 保健衛生総務費
街路灯強化事業	748	電気使用料 20 修繕料 728	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	既設街路灯の間隔が長く、日没後の通行に支障をきたし、地域住民の要望もあつた。	明るくなって、通行上も安全上も、格段に改善された。	夜になると通行するのに気味が悪かったという住民の皆さんから明るくなって助かりますというご意見が届いている。	当協議会のメンバーが注意して調査をする以外、地域住民の声を聞きながら、設置の必要性がある所については設置の提案を進めていきたい。			道路・河川課 交通対策費
道路安全対策事業	400	修繕料 400	やまざくら通りの歩道3箇所にソリッドシートを施工し、視覚的に自転車のスピードの出し過ぎを抑制する。	通称山桜通りを自転車で行くときについスピードが出過ぎてしまう。	ソリッドシートを施工した。	視覚的な効果がある程度はある。	効果に比べて、費用が高い。			道路・河川課 道路維持費
地域防災訓練強化事業	50	補助金 50	防災意識向上のため、ポスターの製作と隣接地域と合同で防災訓練や勉強会を実施する。	五月丘1丁目、アルビス五月丘、五月丘5丁目の自治会が中心になって地域防災訓練を行っていた。	大阪府池田土木事務所、池田市危機管理課、池田市消防本部、五月丘小学校、渋谷中学校の協力を得て、自治会に加入していない住民の参加もあつた。	訓練の経験を通じて、自助、共助の大切さを理解していただき、役立てるよう期待したい。	五月丘地区においては自治会に属さない住民、マンションの人達について、地域推進協議会が包括して支援する必要がある。			危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	263	補助金 263	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の地域住民に対する認識や活動内容等の理解を得るため継続事業として、全戸配布をしている。	年/2回、17回の発行に及び地域住民に活動報告、催物のPR、アンケート調査等を行う。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容の充実と長年の発行実績により、地域の皆様の認知度は確実に向上している。	活動内容が広く紹介されているか、紙面デザイン、レイアウト等が適切か、発行回数が年2回でよいのか等、検討の余地はある。			地域分権・協働課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	82	補助金 82	都市再生機構（UR）の北集会所の一部を借り上げ、協議会の拠点施設とする。	各種の用具を保管する場所がなく、分散して保管していたが効率が悪く、整理もつかなかった。	隣接する部屋をコミュニティ・カフェとして月/2回URから借りて、カフェの備品等も収容ができ、効率的に利用できるようになった。	隣接する部屋を利用できるという利便性はコミュニティ・カフェには高い。	コミュニティ・カフェの備品が多くなって、他の備品が置けなくなってきたので、適当な広さの拠点施設が必要になってきた。			地域分権・協働課 自治振興費
コミュニティサロン設置事業	118	補助金 118	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを月2回設置する。	地域住民の交流を図る場所と地域推進協議会の認知度向上を企図して、カフェを2回/月開催し、地域の人たちが楽しめる場所がなかったので設置した。	回数を重ねることに内容の充実が図られて、高齢者、親子ずれの参加者が多くなってきている。	カフェを運用するボランティアの皆さんのご苦労もあり、イベントの出演者、地域の皆さんのご協力を得て、交流の場として定着した。	イベント等幅広い企画を行い、より多くの地域の皆さんに参加をいただける事業構築を行う。ボランティアの増員をいかにつなげるかを検討していく。			地域分権・協働課 自治振興費
盆踊り大会支援事業	350	補助金 350	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	継続して実施している、当地域では夏の定番となっている。	天候にも恵まれ、盛況であった。	協賛して交流し、地域推進協議会として地域の他の団体に対して、また他の地域の団体に対しても得るところがあつたと思われる。	備品、用具等で老朽化したものがみうけられる、これらの更新を図る必要がある。			空港・観光課 自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	300	補助金 300	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場としてフェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	盆踊り大会、市民運動会以外にも老若男女、子どもまで、ふれあえる場を必要としていた。	準備段階、当日のイベント、来賓の方々、出演者、支援者、運営に携わった会員の皆さん方全員が一致協力してやり切った。	地域の人たちが一体となって、達成感を味わうことができたことは意義がある。	イベントの選定、管理、設営等ノウハウを積んだつもりでもまだ改善の余地がある。謙虚に反省して地域にとってどうあるべきかを考えていく必要がある。			空港・観光課 自治振興費
カルチャースクール開催事業	30	補助金 30	文化的な住民のふれあい・交流の場としてカルチャースクールを開催する。	生活に直結した、子育てに役立つ、文化的な催物がなかった。	五月丘会館の調理室の改良が完成して、非常時における地域に向けての給食対応、将来に向けた高齢者等への配食サービスを勧奨して実施した。	建物の性能評価、設備の性能評価、買出し、下ごしらえ、調理、配膳等の必要人員数等が判明し、費用計算を行い、一歩を踏み出せたと思います。	食料品のストック場所、必要人員の班編成等のほかにも運搬移動の問題等実践的な課題は多い。			空港・観光課 自治振興費
五月丘こども神輿支援事業	324	補助金 324	五月丘こども神輿のお祭り用品の支援を行う。	神輿を担ぐ時に着る法被の数が足りず、他の地域から借りたり、着ずに参加していた。	大人用、子供用と何とか格好がつく程度には数量が収まった。	我が国の伝統文化に子供の頃から、ふれることは情操教育の点からも良好と思われる。	帯の補充や神輿が手造りのために補強、修繕が要るとの事。			空港・観光課 自治振興費
花プロジェクト事業	94	補助金 94	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	大阪府の緑化事業で小学校3年生の授業の一環として、取り上げられていたものを当コミュニティ推進協議会が引き継いだ。	府池田土木事務所、池田市教育委員会、五月丘小学校教職員、PTA、児童、渋谷中学校教職員、生徒、地域の皆さん等により植込みして、育成、開花させる。	校長先生、教頭先生の熱心な水遣り等で夏休みの間も花の大部分は枯れずに開花する。その花を見て子どもたちはきれいと感じ、緑の大切さを知る。	大半は成功事例を見て子どもたちは感じるものであるが、失敗事例で考えることも教育には必要なのかも。			農地緑政課 自治振興費

各分会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。

地域内の各団体はもとより、協議会内でも密に連携を図ったうえで事業実施いただき、地域の活性化、コミュニティづくりにつなげていただこうお願いしたい。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

かぶとむし産卵場撤去事業	30	補助金	30	かぶとむしの産卵場で機能していない市民の森等について、美化の観点からも撤去する。	市民の森等において、雑草、落ち葉、枯れ枝等に覆われて安全上、美観上、地域の人達から撤去の要請があった。	かぶとむしが減ったと言う話は聞かない。	見通しも良くなり、景観上も良くなった。	今後設置をするときは五月山に詳しい、自然観察インストラクター連絡会や自然環境保全協会と打合せをして実施する。		カブト虫産卵場としての維持管理面など費用面も考えながら事業をされている。	農地緑政課 自治振興費
キッズランド支援事業	50	補助金	50	五月丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	一輪車に乗りたくても乗れなかった。	多くの児童が一輪車を楽しむことが出来るようになった。	平衡感覚の涵養に役立った。それとチャレンジする勇気も養った。	当地域は殆どの道路が坂になっているので一般道で一輪車に乗ることは安全の面からは不適當で家庭専用と考える。		キッズランドで使用する一輪車を購入したことにより、多くの児童が一輪車を楽しむことが出来るようになった。また、児童の平衡感覚の涵養に役立った。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
イベント運営事業	290	補助金	290	地域交流や地域活性化などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。	五月山ハイキング、グランドゴルフ、里山教室は恒例行事化した。卓球教室を新しく加えた。	グランドゴルフ大会を年2回の予定だったが、1回しかできなかった。各種イベントの打ち合わせ等を行う際のマイク放送設備の充実を行った。	イベントの開催を行う毎に、主催者側、参加者の連携が出来てくるのでPR効果は大きい。放送設備も使い道が多様で、高齢者にも評判が良い。	老若男女を問わず交流の場を増やして、他の地域団体と共同して開催を図ることも必要だと思う。		新しい試みを実施しており、評価できる。	生涯学習推進課 自治振興費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。						雨天中止	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	5,423			事業提案限度額 8,114千円	次年度繰越金額 2,691千円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

石橋南地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概 要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所 管 課 科 目 (目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	354 電気使用料 34 設備保守点検委託料 320	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	地区内(空港、石橋4、石橋1等)の8ヶ所に設置している。	上に設置カメラに係る維持・管理の為に定期検査を実施し、正確な資料の提出に努めた。	必要に応じ、市役所危機管理課(警察からの開示要請等)の要請を受け開示立会を行ない効果を上げる。	今後も継続する。			危機管理課 自治振興費	
地域内会館設備改修事業(石橋会館)	491 修繕料 491	石橋会館の空調設備の整備を行い、利便性を向上させる。	石橋会館2階小会議室の空調設備が不調	空調設備の改修実施	空調の改善に伴い利用者の快適な利用が確保された。	適正な利用と管理			地域分権・協働課 共同利用施設管理費	
AED管理事業	930 器具費 930	使用期限が切れる本体3箇所(石橋会館・石橋駅前会館・空港会館)の更新を行う。	設置AEDの電極パットの使用期限の到来。(3ヶ所 石橋会館、石橋駅前会館、空港会館)	今年度も使用実績は無かったが、緊急時の為に定期交換を行った。	緊急時の安心の為に効果がある。	継続			健康増進課 保健衛生総務費	
街路灯強化事業	665 電気使用料 8 修繕料 657	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	①防犯灯3台設置(空港1丁目、住吉1丁目) ②防犯街路灯2基設置(石橋1丁目)	①事業実施し地区内の照度の向上に伴い安心安全に努めた。 ②予算提案時より周辺現況が大幅に改善(農地が駐車場に整備され防犯灯の設置もされた)又今後の維持管理費の必要性も考慮して、工事を中止した。	①本事業の完成により照度の確保と安心・安全が確保された。	継続			道路・河川課 交通対策費	
道路安全対策事業	441 修繕料 441	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	空港1丁目地区内4ヶ所に交通安全に不安な所がある。	空港1丁目地区内の必要な4ヶ所にカーブミラーを設置した。	歩行者・運転者共にミラーの設置に伴い安全意識の向上につなげた。	継続			道路・河川課 交通対策費	
地域防災体制強化等事業	1,913 補助金 1,913	自主防災組織への資機材配備を充実させ、地域の防災体制の強化・推進を図る。	現在ある空港地域自主防災会の資材の不足分を補充する	自主防災会の要求のあった、テント、毛布、敷マット、エアーマット等の補充を行い緊急時の体制を整備した。	資材の補充により、万一の緊急時への体制が整い地区住民の安心に資している。	資材の適正管理を継続する。	各部会(ブロック別)でまとめられたものを協議会で決定する。	本年度もハードを中心に提案いただいた事業を実施。地域内の公平性を担保しながら、全体としての地域コミュニティの結びつきを期待する。	危機管理課 自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	308 補助金 308	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地区内の活動状況・事業実績を地域住民にPRする為に発行する。	本年度も3回発行し区域内全戸に配布すると共に地区内掲示板にも(大判)も貼付し、当協議会の活動のPRと理解を求めた。	当協議会活動の理解をいただく一助となった。	引き続き年3回の発行に努力する。			地域分権・協働課 自治振興費	
地域行事等活動推進事業	130 補助金 130	地域で開催される行事等を主催する団体に対し、活動に係る支援を行う。	地域行事を主催する団体(石橋まつり実行委員会)に活動を推進する為補助する。	地域行事の実施の為に有効に利用した。	池田市全域の行事でもあり、且つ近隣の市民にも広く親しみ、楽しめる行事となっている	警備体制の充実により安全・安心な運営に努める			空港・観光課 自治振興費	
石橋太鼓支援事業	270 補助金 270	石橋まつり等で使用する太鼓の皮の張替えをし、子供太鼓活動を支援する。	石橋太鼓会(石橋まつり等地域行事に出演する)が使用する太鼓の皮が破れて正確な演奏が困難である。	2台の太鼓の張り替えを実施した。	「石橋まつり」で子供達60~70名が参加し楽しく演奏が出来た。又太鼓会の皆さんも喜んで演奏した。	必要に応じ張り替えを行う予定。			空港・観光課 自治振興費	
石橋駅前アーケード看板維持管理事業	30 補助金 30	石橋駅前に設置したアーケード看板に常時照明をつけることにより駅利用者等の視認性を高める。	石橋駅前アーケード看板の電気代	アーケード看板電気代	駅利用者等の案内に効果があった。	継続			地域活性化課 自治振興費	
交通安全対策事業	432 補助金 432	石橋商店街内を走行する自転車による事故撲滅のため、自転車走行注意の垂れ幕を設置する。	石橋商店街の自転車の走行が非常に危険である。	商店街を走行する自転車に注意喚起を求める垂れ幕を5ヶ所に設置した。	垂れ幕の設置により気を付けてくれる方もあるがまだまだ充分ではない。	継続			まちづくり・交通課 自治振興費	
市民レクリエーション大会事業	200 行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上に努める。	校区主催の市民レクリエーション大会の運営費の一部として補助する	大会運営費の一助として有効に活用された。	地域住民の積極的な参加があり、健康と交流の場とする事が出来た。	「安全運営」に留意し、継続			生涯学習推進課 社会体育振興費	
計	6,264	事業提案限度額 6,316千円	次年度繰越金額 52千円							



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金	100	協議会の運営に必要な庶務経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							地域分権・協働課 自治振興費
地域防災体制強化等事業	350	器具費 補助金	50 300	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を図る。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	防災訓練が各自主防災隊の持ち回り開催であったため、それを一元化する。歳末警戒の際など夜の災害警備活動を行うしやすくしたい。	自主防災隊による開催ではある程度限界があったが、より効率的に運営できた。歳末警戒などは子供たちも参加するためテント前や格納庫前を明るくする必要があったが、明るくなった。	自主防災隊が有名無実化している地区もありコミュニティが主催することでその地域の人たちからもよかったと言われた。安心して夜間の活動ができた。	自主防災隊や地域の自治会などがいない地域への働きかけが課題。効果的に使用できている。		校区合同で訓練を行い、災害時に地域での防災力向上を期待する。地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。	危機管理課 災害対策費 自治振興費
AED管理事業	33	消耗品費	33	使用期限の切れるバッテリーの交換を行う。	UR集会所に設置したAEDの部品交換の時期がきている	新しいバッテリーに交換した。	通常に使用可能である。	屋内にあっては役に立たないとの意見が多くある。URの集会所も鍵がかかっている時間帯があり、検討の余地あり。		健康増進課 保健衛生総務費	
道路安全対策事業	2,000	修繕料	2,000	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	歩行者や通行車両に歩行者が歩く位置を明確にしたい。	色がついていることで車両や歩行者にそれぞれのレーンを認識しやすくなった。	道路が安全に通行できるようになった。	安全に通行するように徹底する。		道路・河川課 道路維持費	
緑丘小学校金管バンド支援事業	1,146	校用器具費	1,146	緑丘小学校の金管バンドの楽器更新を支援し、子どもたちの意欲向上を促し、地域と小学校の交流を促進する。	修理する予算もなくボロボロの楽器で練習する子供たちに楽器を提供し地域の人と吹奏楽を通して交流する機会を持ちたい。	新しい楽器を使って元気に練習する子供たちを演奏会を通して地域と交流した。	今年度は金管バンドが大活躍し、全国大会にも出場。地域の人にとっても誇りを持つバンドになった。	PTAや学校に地域コミュニティのお金を使うのはなじまないという意見を耳にするが、PTA会員も子供たちも地域の重要な住民である。そして学校はコミュニティの活動に欠かせないパートナーである。		総務・学務課 学校管理費	
水月児童文化センター放送設備整備事業	300	修繕料	300	水月公園の利用者向けの放送設備を水月児童文化センターに設置する。	5時を過ぎても公園で遊んでいる子供たちに帰るよう促したい。	タイマーがないため、児童文化センターの職員に放送をお願いした。	水月公園の梅林側には放送設備がなかったため、何の告知もできなかったができるようになった。	5時になったら自動で放送するようにしたい。		生涯学習推進課 社会教育管理費	
地域コミュニティ紙発行事業	200	補助金	200	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を毎月配布する。	毎年3回発行。	最近、コミュニティ紙を見てきたという人も時々あらわれた。	菖蒲祭りの時、コミュニティ紙に付けている80歳以上無料券の使用者が増えている。	地域の人にこのコミュニティ紙を利用してもらえるようにしたい。	各部会でもまとめられたものを役員会で決定する。	地域分権・協働課 自治振興費	
地域イベント開催事業	450	補助金	450	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者に楽しんでいただく。	多くの住民の参加を得て、順調に推移している。内容については例年と変わらず行う。	受講者も新しい顔が増えた。80歳以上無料券も定着している。動物園も盛況であった。	当日に茶道教室を併設しているが、年々親子での参加が増えてきている。茶道が校区の人たちにとって身近なものとなっている。動物園も列ができるほどの盛況であった。	指導していただいている先生方の高齢化、指導が負担になってくるかもしれない。現在は来年度に向けて指導いただくことで進んでいる。		生涯学習推進課 自治振興費	
健康啓発講座開催事業	50	補助金	50	増加する認知症患者に対する正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	認知症についての知識や認識を深める講習会を開催したい	認知症についての知識が深まった。	昨年より希望者が増え、講座の知名度も上がってきた。	講座をより広く広報して参加者を増やしたい。		介護保険課 自治振興費	
オペラ鑑賞会開催事業	620	補助金	620	わかりやすい日本語によるプロのオペラを鑑賞し、親と子、地域住民との交流を図る。	地域の人達に本当の音楽芸術を鑑賞していただく機会を創る。	小学生をはじめ、地域の保育園児、幼稚園児そして地域住民に鑑賞していただいた。初めて体験した人が多く喜んでいただいた。	マイクなどを使わない人本来の声での演奏に先生たちから「これは本物や」との感想をいただいた。	もっと多くの人に来ていただけるよう工夫が必要。		生涯学習推進課 自治振興費	
ふれあい講習会開催事業	880	補助金	880	星座観察会を通じて親子のふれあいの場を提供する。子どもたちに、本格的な音楽に接する機会をつくるためのイベント「音楽の宝石箱」を開催する。	【星座観察会】毎年緑丘小学校の運動場で実施していたが、惑星と月くらいしか観測できないため西播磨天文台で本当の星空を体験してもらおう。 【落語会】プロの落語家による落語を身近に聞く機会を提供する。 【音楽の宝石箱】ふれあいフェスティバルの午後の部として毎年開催している。	【星座観察会】たくさんの参加者を得て大変好評であった。 【落語会】会場内は笑いに包まれ、心の安らぎを得ることができた。 【音楽の宝石箱】今年はBE IN VOICESの演奏会を行った。	【星座観察会】大阪大学の天文同好会など知識が豊富な人たちの応援を得て参加者に感動していただいた。学生のお兄さんに教えてもらいながら自由研究をしている子供たちが多くいた。 【落語会】大阪大学落語研究会の参加も得て、鶴笑師匠との大喜利もあり、たいへん盛況であった。 【音楽の宝石箱】子供たちとのジョイントがあったり、会場が一体となった。	【星座観察会】会員以外のボランティアなくしては考えられない事業である。その人たちへの負担が問題。 【落語会】前回の反省もあり今回はチラシを全戸配布した。空席なしの盛況であった。鶴笑さんが3回目であることもあり、新しい候補を探している。 【音楽の宝石箱】子供からお年寄りまで楽しめるものでなくてはならない。		生涯学習推進課 自治振興費	
ふるさと再発見講座開催事業	200	補助金	200	わが町に愛着、誇りが持てるように池田の歴史や自然を再発見する講座を開催し、同時に親子ふれあいと地域住民のコミュニケーションを図る。	例年行われており、地域に定着した事業になっている。	例年、抽選をしないといけないくらいの状況である。	池田や池田に係わる場所や文化に愛着が湧いたと思われる。	本来のふるさと再発見講座から少し外れてきている向きがある。学校はコミュニティの活動に欠かせないパートナーである。		生涯学習推進課 自治振興費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。						生涯学習推進課 社会体育振興費	
計	6,529			事業提案限度額 6,529千円	次年度繰越金額 0千円						



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100								地域分権・協働課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	47	電気使用料 7 設備保守点検委託料 40	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。	神田小学校南西角の交差点での事故が多発していた。(死亡事故も含む)	交差点全体をカバーする防犯カメラを設置した。 28年度から、保守点検等の維持管理(電気料含む)費用が発生。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。	事故抑止効果をさらに高めるため、「防犯カメラ作動中」看板を大きくすることが必要。(ドライバーからもよく見えるように)		継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課自治振興費
地域内会館備品整備事業(早苗の森会館)	2,744	庁用器具費 2,744	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	大会議室の机・椅子が重く、設置・撤去が大変であった。(特に老人会の利用が多く、改善要望があった。)	軽量のテーブル、椅子に切り替えた。	利用者からは、利用しやすくなったとの声大きい。	神田北会館についても整備の必要がある。		会館の利便性が向上したものと評価。積極的に利用していきたい。	地域分権・協働課共同利用施設管理費
地域掲示板設置事業	1,031	修繕料 1,031	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	過去に民間事業者が設置した掲示板を使用していたが、老朽化等もあり使えない状態が続いていた。	ガラス扉付の掲示板を設置した。 28年度に4カ所追加設置した。	雨水にも濡れなくなり、校区内各種団体にも活用されている。	未設置個所を調査し設置することが必要。		4台とも新規設置であり、広報活動の拡大につながっているものと評価。	地域分権・協働課自治振興費
地域イベント備品整備事業	454	庁用器具費 454	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	神田小学校体育館で実施する地域のイベント参加者が増加、備品が不足するようになった。	会議用テーブルを10脚追加購入。	地域行事の参加人数増加にも対応できるようになった。	特になし。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
街路灯強化事業	431	電気使用料 51 修繕料 380	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されていた。(放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘)	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施、校区内の夜間が明るくなった。 28年度は新設1件(永年懸案の場所)。維持費も発生	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。 継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。 農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。 私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主をどのように調査するか検討が必要。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全が図られている。	道路・河川課交通対策費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車で行う。	PTAIによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含め校区全体の安全パトロール体制がなかった。 H20年度からパトロールを開始することになった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。(平成21年1月以降)平成27年度につづき、継続実施できた。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少しづつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。また、PRのためパトロール中の肩掛け標も新設し効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。		今後ともパトロール活動の強化に努めていきたい。	危機管理課自治振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	520	補助金 520	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。(白黒印刷)	カラー刷りの広報紙を、年3回地域内全戸配布できた。 (22年度以降継続)	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることができ、回数もふえたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアを継続して広報紙で募集を続けることが必要。 ワンルームマンション増加への対応が必要。		大きな文字や写真により、読みやすく、また独自性の高い記事が多く、創意工夫されているものと評価。	地域分権・協働課自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	860	補助金 860	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や他団体、神田の行事、歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。 28年度も継続実施した。	神田地域内の写真等を通じて、神田地域のコミュニティ意識の高揚がはかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることの検討が必要。		他地域からも問合せの多い事業であり、大いに地域のPRに寄与しているものと評価。	地域分権・協働課自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	補助金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。 28年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
神田フェスタ開催事業	150	補助金 150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させる。	地域住民の交流・ふれあいの場として、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	27年度につづき、28年度も年3回の神田フェスタを開催した。 民間施設・幼稚園施設での開催も実施し、参加者の増加、ピアノ演奏もできた。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむつかしくなってきた。(神田地区中心部にある民間設備の利用も検討)		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	60	補助金 60	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3カ所に花壇を設置、定期的な花の入れ替え・水やり等ができるようになった。(神田花の会メンバーが対応)	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園他花壇など必要な場所がないか検討が必要。		今後も地域と学校が協働で自然とふれあいの場を広げていくことを期待する。	農地緑政課自治振興費
見守りパトロール隊強化事業	648	補助金 648	地域の安全・安心の向上のため、見守り活動を支援するとともに、犯罪抑止を図る。	見守りパトロールは各自の私服で実施していた。	蛍光色つきのベストを製作、関係者(自主防災会・小学校PTA・安全パトロール隊)などに配布。 安全パトロール実施が一般の人にもわかるようになった。	犯罪の抑止効果が期待できる。	犯罪抑止のための各種方策の検討が必要。		見守り隊の方々が蛍光色の統一ベストを着用することで、安全パトロール実施が一般の人にもはっきり分かるようになった。 また、子どもたちは安全に登下校することができ、保護者や地域住民も安心して子どもたちを送り出すことができている。 有効な事業として評価できる。	教育センター自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金 150	キッズランド用品を充実させる。事業内容の拡充と参加者の増加を図る。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙等を支援することにした。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。		キッズランドのパソコン教室に必要なプリンター用インクやトナー、用紙等は、参加者の活動に必要な不可欠な消耗品であり、活動の充実や参加者の増加につながっている。 有効な事業として評価できる。	教育センター自治振興費

各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。

地域の特性上、会館の数が多く、順次整備いただいているものと認識しているところ。今後の拠点づくりも含め、協議会体制の強化が必要と感ぜられるところ。

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を益踊り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。		事業実施により、地域スポーツの振興が図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
計	7,665			事業提案限度額 12,137千円	次年度繰越金額 4,472円						

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
街路灯強化事業	35	電気使用料 35	細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。			街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全が図られている。	道路・河川課 交通対策費
地域コミュニティ紙等発行事業	333	補助金 333	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているのかわからないため、活動を知っていただき、関心を高める必要があった。	年2回(7月、1月)発行。部会毎の事業報告や観水公園・グランドゴルフ場・イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新会員の募集をしていく。			協議会の情報だけでなく、広く地域に関する情報を掲載しており、読みやすく工夫されている。	地域分権・協働課 自治振興費
細河ホームページ管理事業	191	補助金 191	細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じて発信、HPの更新を行う。	池田市、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開設し公開した。	毎月1回(年間)広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河を訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。			定期的な更新により、地域の情報提供に寄与している。NPOとのすみ分けには留意されたい。	地域分権・協働課 自治振興費
細河ふれあい観光推進事業	200	補助金 200	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、細河PRイベントを行う。	ほそかわフェアというイベントを平成23年度より継続して開催している。細河の魅力を再発見し地域の活性化を促すとともに、地元特産物をつくり、細河をPRするように計画した。	しいたけ菌入れや野菜収穫体験を通して細河の魅力を伝えることができた。学校給食に大根、人参を出荷し細河野菜のPR、ブランド化に努めた。給食では、子どもたちに好評であった。又今年度は3年生に大根を1本づつ持って帰ってもらった。	関西大学の学生の企画で推進する。細河の魅力再発見、地域の活性化につながる行事である。	いろいろな角度から細河の活性化につながる企画を考え、実施できるよう若者や地域との協力関係の充実。学校給食に出荷にあたり、安定した供給体制の整備。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
細河祭り運営事業	200	補助金 200	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に進行。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まつり運営を支える必要がある。	地域住民の実行委員会が主体で運営を行って、模擬店を出し、コミュニケーションを充実させることができた。	地域及び地域外との活性とコミュニティ意識の高揚。	小学校の廃校に伴い地域での行事継続の取り組み方。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
細河地域活性化推進事業	2,063	補助金 2,063	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営、散策路管理等一連の事業を総合的に進行。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営、五月山ハイキングコースの維持管理、古くなった事務所の看板を更新する必要がある。	みどりの郷(火曜日は休館)は朝9時から午後4時30分まで開けております。五月山ハイキングコースの草刈り、危険木の撤去を実施し、ハイキングしやすい環境になった。また、事務所の看板を更新した。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。ハイキングコース利用者が多く細河の自然を市民に提供し、地域活性化に寄与。	事務所詰め等のボランティア及び出展して頂ける人の募集。			観光の窓口として定着するとともに、農産物の販売により地場産業の活性化につながっている。	農地緑政課 自治振興費
細河の自然を守る事業	1,000	補助金 1,000	ホタルの育成事業の実施、里山の竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	蛍の飛ぶ環境が出来上がっているが、維持管理が必要。里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	蛍の飛ぶ姿が確認できた。地元市民に好評であった。里山保全活動では軽トラックをリースし、間伐した木材を運搬し、しいたけの原木と炭、薪に利用している。	蛍の飛ぶ姿が豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。			ホタルの育成を始めとした細河の自然を生かした事業活動に取り組んでおり、今後も期待する。	農地緑政課 自治振興費
余野川堤防八重桜植樹事業	100	補助金 100	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、余野川堤防に八重桜を植樹する。	平成25年度より継続していたが、今回、大阪府の左岸堤防改修工事により桜の植樹が出来なくなり、池田市より送られた桃の木3本を移植する事業に変更した。	和歌山より送られた桃の木3本は伏尾台の空き地に借り植えされていたが、桃の木が実をつけるようになり公的な場所に移さなければならなくなったため、当協議会メンバーである東山町の社会福祉法人池田さつき会の玄關横に植え付けた。	自然と地場産業である植木を活用し、細河の景観の美化。すでに成木に成長した桃の木である為、桃の実の収穫を期待できる。	大阪府の河川改修工事が完成されるまで植樹事業は休止します。			毎年の植樹により、細河地域の景観美化につながっている。	農地緑政課 自治振興費
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金 25	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏尾台地区とともに行う。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏尾台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。			学校と地域が協力して花を地域の老人ホーム等に配布することにより、地域のつながりにも期待できる。	農地緑政課 自治振興費
細河高齢者等配食サービス事業	2,804	補助金 2,804	配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評のため、計画より300食多くなった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な主婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に占める率が増額し、他の事業に支障をきたす。			平成28年度は7,429食を配食。地域全体で高齢者を見守るという観点から、社会的意義の高い事業である。	高齢・福祉総務課 自治振興費
細河コミュニティ道路整備事業	500	補助金 500	伏尾台地区と協働して地域間を結ぶ散策道の整備を行い、市民の健康増進を図るとともに隣接する地域間の交流を図る。	継続している事業で舗装工事が完了したが、秋ごろから夕刻の時間帯通行するのが暗く危険が伴う。	散策する人により伏尾台と細河の交流が進む。今回半分に照明が設置され、夜間も安全に通行出来るようになった。	細河・伏尾町と伏尾台をつなぐ貴重な通路である。交通安全による国道通行止めの際、路として利用できる。	利用者が幅広い年齢層になり、夜間照明、転落防止柵の設置 出入り口への警備員の配置等も必要となる。			街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全が図られている。	道路・河川課 自治振興費
細河コミュニティ道路維持管理事業	50	補助金 50	細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	雑草や枯葉等で滑ったりして危険である	急な個所も滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散策する人が安全に通行出来るようになった。	維持管理が年々負担に成りつつあるので、事業が負担なく出来るよう検討が必要			道路整備により、より安全で安心な散策道が確保されたと考えられる。	道路・河川課 自治振興費
細河地域子ども会育成事業	300	補助金 300	校区全体で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども会活動の支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	7月にプール場、3月にはスケートリンクへ送迎し、子どもの育成に寄与することができた。	子ども会活動の充実を図り地域と子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子ども会とのかかわり。			プールやスケートといった子どもが楽しく元気に活動できる場を提供することで、細河地区の子ども会活動の充実が図られ、子ども同士や親同士の触れ合いを深めることができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
グラウンドゴルフ場維持管理事業	150	補助金 150	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るために設置したグラウンドゴルフ場の維持管理を行う。	敬老会に運営整備を委託していたが規模が大きく高齢者には十分な整備が出来ていなかった。	業者委託する事でとても綺麗な状態を維持できるようになった。	使用者からも好評である。	利用者の増加の為今後は学校や地域の方々への募集を図りたい。			より一層のグラウンドの活用を。	生涯学習推進課 自治振興費
計	8,051		事業提案限度額 8,051千円	次年度繰越金額 0千円				各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	NPOと協働し、コミュニティビジネスを展開するなど、先進的に活動いただいているものと評価。一方、補助金の適正な管理、執行については十分に留意されたい。		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏見台地区）

事業名	予算額(千円) 説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における 評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課 科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100 交付金 100	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
安全パトロール実施事業	510 修繕料 53 自動車重量税 7 補助金 450	地域安全パトロールを実施し、地区内の安全・安心の向上を図る。	実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。 H26年度は、登校予定日、小学校の曜日ごと、学年ごとの下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、7時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間の1日3回のパトロールを実施した。 H27年度は、小中一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏見台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。 朝の登校時に定立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。	巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開校日並びに登校・下校時間に合わせて行い、巡回のみならず定点パトロールを実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。 安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。	パトロールを継続して行った結果、空き巣の防止に繋がり、防犯カメラ事業との相乗効果もあり、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。 朝のパトロールは走行よりも主に定立ちとし、小中学生を始めとする学生、通勤者らにあいさつの声掛けを積極的に行うことができた。 下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセールス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。	隊員の減少と現隊員からの出勤時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が減少することから、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。 運行スケジュールの立案とともに、実施者証の更新講習会の開催手配と、新入隊員への受講手配、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給等などの事務方の処理量が増大している。			日々の地道な活動の成果により、小学校区内でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっている。今後パトロール活動の充実を期待する。	危機管理課 一般管理費/一般管理費/自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	460 電気使用料 60 設備保守点検委託料 400	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	H22年度に伏見台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラを設置した。H24年度に第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点に防犯カメラを設置した。H25年度、北高校の周回路北側の中央付近から西方向に向けて1台、周回路の南東の1字交差点に東西方向に向けて2台の防犯カメラを設置した。H26年度、北高校の周回路北側の中央付近から東方向に向けて1台の防犯カメラを設置し、旧伏小付近を撮影可能にした。伏見台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に設置したカメラ支柱を利用して夜間撮影が強化されたカメラを増設した。	14台の防犯カメラの設置によって、地域内に入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。	警察の捜査にも協力でき、同時実施の安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防災防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、毎年空き巣事件"0"を更新していたが、H27、H28年に侵入盗が各1件発生したが、伏見台から出ていない記録が確認でき、無事発見できた。	14台設置したので、地域内に防犯カメラの増設を行うべき特段の理由はなく、今後は維持管理が主になるが、捜査の記録開示の要請に備える体制の維持と、経年変化により故障するカメラが今後増えることへの対応など管理業務を強化する必要がある。 特に落着によるサージ電流により作動が停止することがあるが、目視等で確認することができず、年1回のメンテナンスではその後の落着の影響を確認することはできない。 さらに中央公園に設置されているトイレに防犯カメラを置くことが要望されている。			継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業	1,601 建物借上料 500 補助金 1,101	地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点の運営を行う。	コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏見台周回路沿いで西公園南側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。 また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏見台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行なった。このプラザ事務所には光ケーブルを引きコピー・ファックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。	西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化した床の損傷が進行したため、東側の半分を張り替えを行なった。 コミプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロンのまちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、H28年4月1日からH29年3月31日までの実績で7903名の利用を頂いた。 月曜日から金曜日のコミプラの開館日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コミプラの維持管理を行った。	伏見台地域に入ってきた目立つ立地条件のもと、webでのグーグル地図にも「伏見台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っている。コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに社協の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。 伏見台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7900名を超えた。子育て支援ルームのみの利用者は、約2669名であり、フリーサロンなどへは約5234名が来訪された。 また、H29年1月から3月には、伏見台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コミプラで行なった。さらに、地域活性化事業のコンサート、落語の開催と事務処理等も本事務所、コミプラで行なった	平成29年度事業検討として、特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえるようにしたい。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十分に発揮できているので、まちの不動産情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コミプラの留守番役のスタッフ、掃除スタッフを現在10名のボランティアでローテーションを組んでいるが、依然として、絶対数が大幅に不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題である。			2カ所の拠点を運営されており、それぞれ有効に活用いただいているものと評価。人員体制の確保は課題であると認識。	地域分権・協働課 自治振興費
コミュニティサロン設置事業	650 建物借上料 500 補助金 150	地域の人々の情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏見台コミュニティプラザに設置する。	伏見台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する処、待ち合わせや談笑する処、急に自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 H27年10月伏見台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏見台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに幹線、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日よりH28年3月31日までの実績で3200名を超えた。	利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせやバスの時間待ちを行う方、フリースクールに通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の鑑賞などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、昼食をとる親子、孫と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分けする方、食事をする高校生などまさにフリーサロンとして利用されている。	伏見台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7900名を超えた。子育て支援ルームのみの利用者は、約2669名であり、フリーサロンなどへは約5234名が来訪された。	さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講演、各種教室などの企画とともに、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コミプラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考える。 また、コミプラ自身が「まちの情報センター」としての機能は十分に発揮できているので、今後はまちの不動産情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。			複合施設として伏見台コミュニティプラザが地域内で認知が広まり、コミュニティ活動の核となっているものと評価するところ。更なる機能充実を期待するところ。	地域分権・協働課 自治振興費
ボランティアセンター設置事業	650 建物借上料 500 補助金 150	地域のボランティア活動の供給者・需要者に対して、情報発信や幹線を調整するボランティアセンターを伏見台コミュニティプラザに設置する。	伏見台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 H27年10月伏見台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏見台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに幹線、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日よりH28年3月31日までの実績で3200名を超えた。	フリーサロン内の壁を掲示板として活用し、まちの情報、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コミプラ」「子育て支援」「各種支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼や、ポスターの掲示を願われるなど多くのグループに利用されている。	伏見台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7900名を超えた。子育て支援ルームのみの利用者は、約2669名であり、フリーサロンなどへは約5,234名が来訪された。	フリーサロンは、日々は子育て支援ルームを訪れる母子、ほそごう学園の生徒、北高校の生徒が中心に利用しており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏見台創生会議などの会議の際には、伏見台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は十分に発揮できているので、今後はボランティア活動のみでなく広範囲の情報センターとして機能させたい。			複合施設として伏見台コミュニティプラザが地域内で認知が広まり、コミュニティ活動の核となっているものと評価するところ。更なる機能充実を期待するところ。	地域分権・協働課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>800 建物借上料補助金 500 300</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏見台第1コミュニティセンターの一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。 平成26年度は、会員67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏見台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。 子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延べ46人)の参加があった。 平成28年度は、4月から9月は32組、伏見台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。半年間、母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。 10月3日より、伏見台コミュニティプラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p>	<p>コミプラ内子育て支援ルーム登録会員数は76組、利用者は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名となり、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守ると言う目的を達成することができている。</p>	<p>フレンズを中心に、社協子育てサロン、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回・キッズコンサート・小児科医座談会を開催し何れも好評を得た。 月に二度、伏見台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となり、七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての恒例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行ってきたが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が、大変多くプラザに来所された。対応できない現状に苦慮するほどの反響を真摯に考えなければならぬ。そこで、幼稚園児の受け入れを6月から開始したが、乳幼児とは行動・適齢玩具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多く苦慮する。 新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子らとの交流、相談で訪れる母親への支援等を考えると、支援者の当番制を確立するため、一部有償ボランティア活動とする方法を検討したい。</p>	<p>子育て世帯のコミュニケーションの場として備品等の環境整備等を実施。親子の交流や悩み相談、季節ごとの行事を実施し、親子が居心地よく過ごせる場所として定着している。伏見台コミュニティプラザでの新規開設後は利用者が大幅に増加。地域における子育て支援拠点としての役割も担いつつある。ニーズに応じて受け入れの幅も広げており、今後とも利用者増に伴う支援体制の構築と活動の充実を期待している。</p>	<p>地域分権・協働課 / 子育て支援課 自治振興費</p>
<p>伏見台コミュニティプラザ設備改修事業</p>	<p>806 修繕料 806</p>	<p>伏見台コミュニティプラザの既存のトイレスペースを2分割し、トイレを1個増設することで、利便性の向上を図る。</p>	<p>平成27年10月に伏見台コミュニティプラザを開設した。この施設内の既設のトイレは1カ所であり、子育て支援ルームに訪れる母子、フリーサロンを訪れる高齢者、学生らの利用を考えるとトイレが不足することは明らかであった。プラザ開設時の内装工事にトイレ増設工事を含まると、市の入札制度にかけると工事費が高額になることが判明したため、年度が異なる個別事業として提案した。</p>	<p>平成28年5月に工事が行なわれ、6月より供用できた。既設トイレ部を2分割して、既設便器側に扉を新設し、間仕切りと既設の扉との間に新設便器を配置することにより個室トイレが2カ所となった。 新設便器側には、本事業工事で別に手洗いユニットを購入し組み立てて設置を行った。</p>	<p>個室トイレが2カ所となり、子育て支援ルームの利用者が30人を超える際にも対応できた。また、増設側には母子が手洗いでできる手洗いユニットを別途購入設置したことにより、利便性が向上し、特に子育て支援ルームに訪れる母子には好評を得た。</p>	<p>増設工事で新設した便器が節水型であり、既設の配管を利用したため、配管長が長くかつ勾配が少ないことが重なり、配管詰まりを2度経験した。 母子のトイレペーパーの使用量がかなり多いこと、特に手拭きを使用することが判明したため、節水型便器であり、一度に大量の紙を流さないよう呼びかけること、毎日閉館後にパケツで複数回水を流すことに対応した。 2箇所の便器清掃と節水型を補う水流が大変であるが、継続しないと配管詰まりを繰り返すことになる。 さらに、施設運営の経験がない故に、平成28年度ともに紙類、清掃用品などの消費費の予算提案を失念していた。</p>	<p>拠点施設である伏見台コミュニティプラザの管理運営にかかると負担が、費用面においても、またマンパワーの面においても、協議会活動の大きな部分を占めているものと認識。今後も事業継続し地域の活性化に寄与していくには、協議会の体制の強化は喫緊の課題であると感じられるところ。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>AED管理事業</p>	<p>42 消耗品費 42</p>	<p>使用期限が切れるパッド、バッテリーの交換を行う。</p>	<p>阪急バス車庫事務所、伏見台センターコープ店舗内に設置した。これまで使用されたことがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。</p>	<p>伏見台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、使用期限が切れたパッドを交換し、使用可能な状態を維持した。</p>	<p>毎日、午前10時から午後10時まで開店しているコープ店舗内と、24時間常駐されている阪急バス車庫の事務所内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。</p>	<p>11月に総合防災訓練で参加者に使用体験を実施し、防災防犯委員会の委員で訓練の機会を設けることが必要である。定期的に設置状態の確認を行うこと。さらに今後、AED本体の交換時期が到来した場合、設置を継続するか、再設置をしないかを検討する必要がある。</p>	<p>関係者の意見を参考にして、役員会でまとめる。</p>	<p>健康増進課 保健衛生総務費</p>
<p>防災防災啓発事業</p>	<p>200 補助金 200</p>	<p>年末の防災訓練用発電機と巡回パトロールを啓発するための用品を購入する。地域住民の防災・防災意識を高め、体験訓練を行う。</p>	<p>伏見台防災・防犯委員会は、自治会連合会より配分される50円×1200戸の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練での費用も参加人数が300名を超え、自治会からの配分予算では厳しい状況である。平成27年度は地域に4箇所ある防災備蓄倉庫のうち、第二コミセンの建屋に隣接していたが敷地内に移設しアクセスし易くした。</p>	<p>8月6日、10月1日に避難所開設運営図上訓練を行い延120名が参加した。8月27日は、防災・防犯委員会が伏見台夏祭り会場、延べ37名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。9月23日は、津波・高潮ステーションと大阪市水上消防署の見学に14名が参加した。11月6日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は300名に達した。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には、延べ95名が参加した。</p>	<p>避難所開設運営図上訓練(HUG)は、非常時の想定を体験することができ意識高揚に極めて有効であった。夏祭りでの通行止め区間の4箇所での夜間照明並びに無線連絡と相まって安全に交通整理が実施できた。津波・高潮ステーションと大阪市水上消防署の見学会が実施でき、参加者全員に感想文を書いてもらい防災意識が高まった。総合防災訓練での必要経費を補助金で賅うことができ、300名を超える住民に7項目の訓練を受けて頂いた。</p>	<p>総合防災訓練時の引率リーダーの養成のための教育カリキュラムとして、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練を行うこと、高槻京大地震観測所の見学会の開催要望があった。</p>	<p>訓練を行い、災害時に地域での防災力向上を期待する。地域内の防災備品を適切に配備・管理することができ、万が一の際に適切な利用されることを期待する。</p>	<p>危機管理課 自治振興費</p>
<p>地域コミュニティ紙等発行事業</p>	<p>300 補助金 300</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏見台では、協議会の広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布作業の全てを、協議会メンバーのボランティアで実施してきた。費用は紙代等の実費のみであったが、協議会委員への負担は極めて大きかった。 平成26年度の第12号広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏見台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報紙を全戸配布した。 さらに伏見台地域活性化事業で行う年3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会委員の手配りで実施した。 平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏見台コミュニティプラザの様子を表紙にし、平成27年度の実施事業を紹介した広報紙を全戸配布した。 平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にし、平成28年度で実施予定の事業を紹介した広報紙を全戸配布した。</p>	<p>平成29年3月に、伏見台創生会議2020が行なった「伏見台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にし、平成28年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、次年度の活動、事業を記載した広報紙第16号を伏見台地区の全戸に配布した。</p>	<p>平成28年度の活動を写真にて紹介した第16号は、第13号以来のカラー写真を多用したこと、折込などでなく個別に全戸配布したことにより、コミプラに活動をよく理解できたとの声が届くことが多くあった。さらに、全戸配布以外に1000部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p>	<p>平成28年度は、年度末に1回のみ発行したことを反省し、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、活動の紹介、協議会入会、アンケート回収や安全パトロール隊員の応募などを有効にしていきたい。 また、「山びこフェスタ開催案内」のポスター、回覧チラシにより、イベントが有意義に実施されたが、委員の負担を減らすため「山びこフェスタ開催案内」をe-mailなどで広報できるように考えていきたい。</p>	<p>予定どおりの発行とならなかったものと認識。計画性をもって事業実施いただくことをお願いする。</p>	<p>地域分権・協働課 自治振興費</p>



地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成28年度執行）

地域行事等活動促進事業	300	補助金	300	地域の夏祭り開催費用の一部を支援する。また行事を通して、住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。	子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供は大勢いるが、恒例の夏まつりで子供御興の巡行が2丁目だけできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御興と同様の外観を有する子供御興を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御興が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。第40回記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成27年8月22日に開催された。	本年度も、住民有志による第42回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成27年8月27日に開催された。当日午前8時より12時30分まで、2丁目北自治会集会所前より子供御興が巡行を始め、1丁目北公園で本御興と合流して1丁目を巡航し、西公園で子ども御興が4.5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。午後からの夏まつり第二弾としてのスポーツ振興会主催のゲーム大会と、元プロバスケット選手のゲームを終えて、午後5時からの音楽ダンス、よさこいなどのフェスティバルが開催された。続いて、7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多く参加し、ここ数年で一番の参加者があった昨年を超える参加者があった。多くの参加者が惜しむ中、9時30分に終了した。	育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子供会の新旧の校長が毎年加入していただき、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。	活動が活性化した子供会では、新調の子供御興の巡行を望んでいるので、毎年夏祭りが開催されるようにしたい。住民有志による夏祭り実行委員会には、さらに多くの住民の参加が期待できる新しいフェスティバル形態の夏祭りを企画して成功を収めることができたので、さらにステージを活用した企画をお願いしたい。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
伏尾台地区活性化事業	350	補助金	350	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。	毎年5月と11月の野外コンサート、3月の落語会と年3回開催で既に13回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだしい山びこフェスタ」と認知され定着している。 H28.5月21日、音楽ライブ グルポチャランゲロのコンサートを地域の社会福祉委員会のフリーマーケットと共催の形で、伏尾台センター「夢の広場」公園で行った。 9月17日、コミュニティプラザ内で、リピーター山中の歌とトークのコンサートを開いた。 11月19日、コミプラにて、阿武山音楽家フォーラム室内合奏団のコンサートを開いた。 H29.1月14日、キッズコンサートをコミプラにて開催した。 2月4日、コミプラにて、小児科専門医との座談会を開催した。 2月25日、落語の会をコミプラにて開催した。	開催結果を夢の広場は参加人数(0.5時間毎の最大ピーク人数、述べ人数でない)で評価する。夢の広場に立ち寄り20~30分間いている方、最初から最後まで聞いている方等多くの人の楽しませている。 5月21日「ジャズコンサート」1.5時間 80~120人 9月17日「歌とトーク」1.5時間 90人 10月3日「室内合奏」1.5時間 90人 1月14日「キッズコンサート」1時間 50人 2月4日「小児科専門医座談会」32人 2月25日「落語の会」90人	例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で音楽や落語が楽しめて良かったと言ひ、継続要望が多かったが、参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが応募が全くない。地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増加していることは間違いないが、開催回数を増やすためには、寄付を募るなど何かの方法を検討する必要がある。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金	25	地域と学校が一緒に実施する「みんな育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。	地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会(細河地区)と共同して、細河中学校が行う地域花いっぱい運動中学生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う)を支援していた。	文字どおりほそごう学園地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、中学生が行う学校、保育所、老人ホームなどへ花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。	今後は、ほそごう学園とともにさらに地域全体の活動としての意義が高まるため、継続して活動していきたい。	学生が育てた花を地域に配布することで、地域緑化だけでなく地域交流と地域活性化にも繋がる。	農地緑課 自治振興費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金	200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下にもともない、自治会からの参加者並びに協賛金も大きく低下している。主に夏祭りの開催に要する労力が大きい負担として、組織率の大幅な低下を理由に自治会連合会を脱会する自治会が出ることにより、平成26年度末で自治会連合会が解散となった。これにより平成27年度の自治会連合会による参加者集めができなくなるため、運動会の中止が懸念された。平成27年度の夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定されることに伴い、運動会開催に自治会が参画することが決定された。	平成28年度も夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定されることに伴い、自治会の負担が減少することから、運動会開催には、各自治会が参画することが決定された。本年度は、大阪府の補助を受けた細河小学校3年生と、本事業の7年生徒が共同して育成したパンジー、ピオラは、平成28年12月9日に、贈呈出荷式をほそごう学園で行い、地域の学校、保育所、老人ホーム、コミプラなど17施設に配り、やさしい環境作りを行うことができた。	協議会と本事業の実行委員会とは、本事業についての協議が行われていないことが問題である。協議会としては、少子高齢化が急速に加速する伏尾台では、幼児から高齢者までスポーツを楽しむ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち回り、参加人数を考慮した紅白対抗形式など、従前とは異なる別形態の運動会を模索していく必要があると考えている。	事業実施により、地域スポーツの振興が図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
計	6,994			事業提案限度額 7,394千円	次年度繰越金額 400千円					
合計	#####			事業提案限度額 94,002千円	次年度繰越金額 18,121千円					